



伊豆諸島の種子植物とその生態
—伊豆諸島の植物ガイド種子植物編—



伊豆諸島植生研究グループ

はじめに ～火山と照葉樹林の島々から～

伊豆諸島は相模湾の南方海上にある火山島からなる島々です(図1)。個性的な島々からなり、噴火で有名な伊豆大島(以下、大島)や三宅島、島全体が深い森に覆われる御蔵島など様々です。植物には独自のものが多く、ハチジョウイタドリやオオシマカンソゲのように、島の名前が付けられています。伊豆諸島植生研究グループでは、2016年に「伊豆諸島の森と草原ー伊豆諸島の植生ガイドー」(以下、伊豆諸島植生ガイド)を発行しました。伊豆諸島植生ガイドでは、島を代表する植生であるスタジイ自然林や雲霧低木林などについて解説しました。本冊子では、伊豆諸島の植物そのものに焦点を当て、特にその生態学的特徴について解説します。なお、対象は種子植物(裸子植物と被子植物)に限られています。シダ植物、蘚苔類などについては、今後の課題となります。

伊豆諸島は気候的には暖温帯に含まれ、照葉樹林(常緑広葉樹林)が最も発達した植生となります。また、伊豆諸島の所属は東京都ですが、距離的に最も近いのは伊豆半島となります。伊豆七島と呼ばれることもあります。伊豆七島と呼ばれることもありますが、現在、人が住んでいる島だけでも9島あります。伊豆諸島の範囲は、大島から嬬婦岩(そうふがん)までですが、この植物ガイドでは人々が訪れることができる範囲にある大島から青ヶ島までのやや大型の島々を対象としています。

噴火とともに生きてきた植物、豊かな照葉樹林や雲霧林に生育する特徴的な植物、島独自の進化を遂げてきた植物などは伊豆諸島以外で観察することは容易ではありません。また、島の植物を観察することで、植物の生態や進化を学ぶことができます。本冊子は、このような魅力ある伊豆諸島の植物の見方を伝えることを目的として作成したものです。

本冊子の構成

本冊子は、伊豆諸島の植物の生態学的な特徴をまとめた「伊豆諸島の種子植物の生態学的特徴」と、伊豆諸島の代表的な植物をごく簡単に紹介する「伊豆諸島種子植物図鑑」の大きく二つからなります。後者については、全体を網羅したものではありません。特に、人里植物などについてはほとんど触れることができ

ていません。また、外来種についても、今回は記述していません。シダ植物などと共に今後の課題となります。

種名と学名について

植物の種名については、原則として「改訂新版 日本の野生植物 1~5」(大橋ほか編、2015~2017、平凡社)に従いました。なお、一部の変種、品種等の扱いについては、米倉・梶田(2003-)「BG Plants 和名ー学名インデックス」(YList)に記載されている名称を用いるあるいは併記しました。伊豆諸島の植物は、島独自の分類群がみられる一方で、本州とも近く、明確に分類することが困難なものも多いと考えられます。本冊子が準拠した資料は、伊豆諸島の植物に関するガイドブック等で使われてきた種名や学名と異なるものを含みます。今後の研究の進展次第では、さらに変更される可能性があります。本冊子もこのような学術的な動向を把握し、定期的に改訂を積み重ねたいと考えています。

本冊子を作成するにあたり、多くの研究者、学生、行政関係者、伊豆諸島の自然愛好家の方々にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

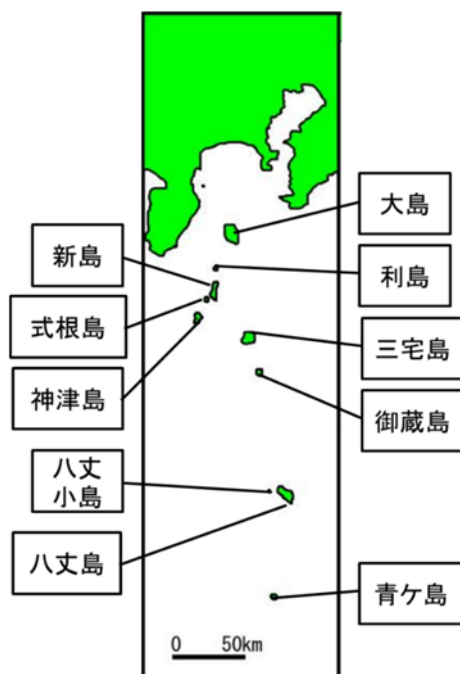


図1 伊豆諸島

本冊子が対象とする島々の名前を示しています。

伊豆諸島の種子植物の生態学的特徴

伊豆諸島のフロラ

伊豆諸島の植物の種数について、包括的に示した資料として、鈴木（1956）があります。この論文では、伊豆諸島の植物を長年研究してきた常谷幸雄博士の収集資料（常谷（1931a）など）をはじめとする植物相に関する資料をまとめ、各島の種数を示しています。鈴木（1956）によると、大島から青ヶ島までのシダ植物を含む種数は 1038 種、種子植物の種数は 907 種です。最も多いのは、最も面積が広い大島の 557 種（種子植物では 511 種）です。ただし、当時未発見の種、外来種、分類学の進展があり、現状とは異なっています。一定の基準に従った新しい植物リストの作成が望まれています。

次に、伊豆諸島に特徴的な植物についてです。図 1 は琉球と小笠原を除く日本の植物区系を示したものです。伊豆諸島は、植物区系としては、富士山、箱根、伊豆半島とともにフォッサマグナ地区に入ります（高橋 1971 など）。伊豆諸島は、その中でも島嶼性の著しい地域として区別されます（常谷・大場 1968）。伊豆諸島に固有な種、亜種、変種について着目すると、伊豆諸島にも分布するフォッサマグナ要素 57 種（亜種、変種含む）の内、25 種が伊豆諸島固有とされます。また、大場（1990）は、およそ 65 分類群を伊豆諸島に固有または準固有の分類群（種、亜種、変種）としてあげています。



図 2 日本の植物区系。高橋(1971)より作成

伊豆諸島に特徴的な植物の分布様式

図 3 は、伊豆諸島の固有種（亜種、変種含む）から準固有種（ここでは、伊豆諸島と本州などの一部に分布する種）の分布図を並べたものです。ハチジョウコゴメグサやサクユリのように伊豆諸島に固有分布する種（変種）と、伊豆諸島に分布の中心があり、本州の伊豆半島、房総半島などにも分布する種があります。

伊豆諸島は本州と陸続きになったことがない海洋島とされ、両者は植物相が異なっています。たとえばサクユリは伊

豆諸島のみに分布し、隣接する伊豆半島には分布しません。その一方で、イソギクやイズノシマダイモンジソウは、分布の中心は伊豆諸島ですが、伊豆半島・房総半島にも分布しています。島の生態系の成立を考えた場合、本土から島に移住した種とその進化だけでなく、島から本土に再移住した種とその進化も考える必要性が示唆されます。

冷温帯・亜高山帯と関係する植物

暖温帯に属する伊豆諸島は、基本的には暖温带系（スダジイ、タブノキ、テイカカズラなど多数）の植物から構成されます。その一方で、冷温帯・亜高山帯と関係する植物

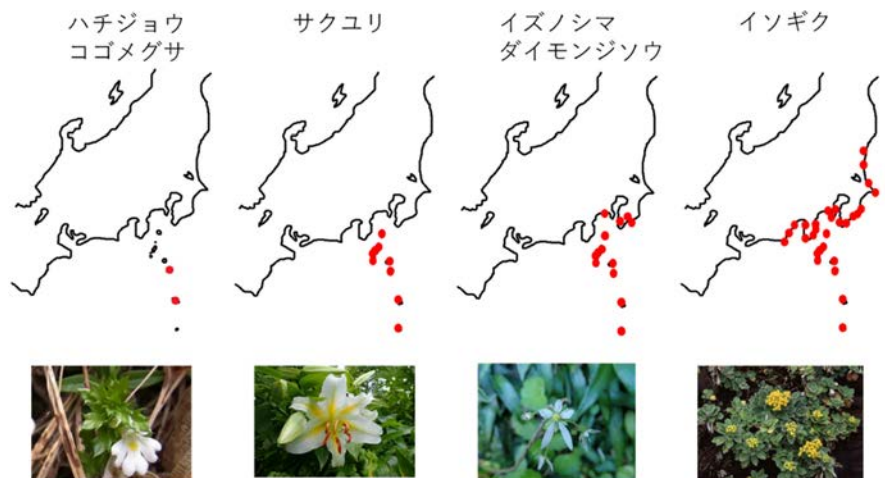


図 3 伊豆諸島に固有または伊豆諸島に分布の中心がある種の分布。分布図は高橋(1971)より作成。なお、サクユリは本州のヤマユリの変種とされ、イズノシマダイモンジソウは本州のダイモンジソウの変種とされる。



図 4 御蔵島のマイズルソウ

の重要性が大場達之博士により指摘されています（大場 1971、1975）。たとえば、オオバヤシャブシの本土側の近縁種であるヤシャブシ、ガクアジサイの本土側の近縁種であるヤマアジサイまたはエゾアジサイは、冷温帯の構成種です。氷河期に本土（本州）から伊豆諸島に移住した種が、その後、島で分化していった可能性が示唆されています。また、御蔵島（851m）には、本州では冷温帯から亜高山帯にまで生育するマイヅルソウ（図 4）やオオカメノキが生育しています。極端な隔離分布として着目されます。

火山噴火とともに生きてきた植物たち

伊豆諸島の大きな特徴の一つとして活発な火山活動があげられます。三宅島は 2000 年、大島は 1986 年に噴火しています。このような噴火跡地に真っ先に侵入できる植物として、オオバヤシャブシ、ハチジョウイタドリ、ハチジョウススキ、シマタヌキランなどがあげられます。この内、シマタヌキランが固有種、ハチジョウイタドリが固有変種です。オオバヤシャブシは砂防緑化に用いられる有用樹種のため、現在は本州などでも広く分布しますが、自然分布は伊豆諸島とその周辺だったとされています。

このように、固有の分類群に火山活動と結びついた種が多いのも大きな特徴です。

噴火直後の土壤が発達していない土地で生存するために、これらの種にはいくつか特徴があります。オオバヤシャブシは他の植物が持っていない窒素固定能力を持ち、土壤ではなく、大気中の窒素を利用することができます（図 5、6）ハチジョウススキとハチジョウイタドリは窒素固定能力を持ちませんが、根を発達させます（図 7、8）。また、ハチジョウススキは窒素を効率的に利用する能力があることも指摘されています。

自然林や雲霧林の植物

温暖湿潤な気候条件下にある伊豆諸島の極相林は常緑広葉樹林（照

葉樹林）です。照葉樹林の成立域は古くから人間活動が活発な地域であり、本州などでは自然林の残存面積は非常に小さいです。伊豆諸島の照葉樹林も人により利用されてきましたが、それでも本州と比べ、自然林がより多く残存しています。その多くは神社林ですが、御蔵島では広面積の自然林が島全体として保存されています。そのため、伊豆諸島の照葉樹林には本州などでは地域的に絶滅した植物や大きく減少した種も生育しています。また、伊豆諸島の照葉樹林に関する気候的特徴として、降水量が多いことともに、雲霧が発生しやすいことがあげられます。以上のような特徴から、ラン科植物、シダ植物、腐生植物、着生植物（図 9、10、11）が豊富です。また、これらの種には、九州や琉球との共通性もみられます。



図 5 三宅島の 1983 年溶岩上で旺盛に生育するオオバヤシャブシ。ハチジョウイタドリとハチジョウススキも見える。



図 6 オオバヤシャブシの根粒。



図 7 三宅島の 2000 年噴火の火山灰上に生育していたハチジョウススキ。根を広く水平に広げている。



図 8 三宅島の 2000 年噴火の火山灰上に生育していたハチジョウイタドリ。根を深く伸ばしている。

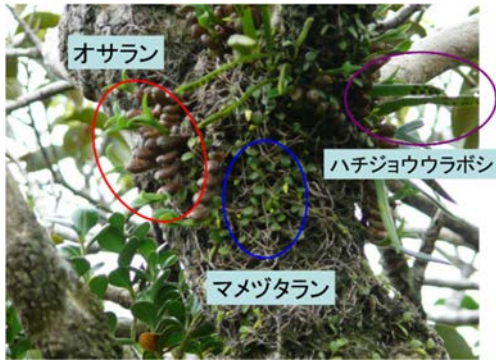


図 9 御蔵島の雲霧低木林の着生植物。3 種が着生している。オサランとマメツタランは環境省と東京都の RDB 種(絶滅危惧種)、ハチジョウウラボシ(シダ植物)は東京都の RDB 種。



図 10 コウヤコケシノブ(シダ植物)に覆われた雲霧林の樹木の幹(八丈島)



図 11 コウヤコケシノブ(御蔵島)

自然林が残存する伊豆諸島は、巨樹の多い島でもあります。環境省の巨樹・巨木林データベース(<https://kyoju.biodic.go.jp/>、2020 年 9 月参照)によると、スダジイ巨樹の上位 4 位までが伊豆諸島のスダジイです。なお、1 位が胸高直径 6.2m (御蔵島)、2 位が胸高直径 6.1m (三宅島)、3 位が胸高直径 3.9m (御蔵島)、4 位が胸高直径 3.8m (利島)となっています。

海岸、風衝低木林、風衝草原の植物

海岸、山頂部の風衝低木林と風衝草原には、森林とは大きく異なる植物が生育します。固有性に着目すると、海岸の植物には、イソギクのように伊豆半島や房総半島にも分布する種が含まれます。一方、山頂の風衝低木林や風衝草原については、ハチジョウコゴメグサ、ハチジョウオトギリ、シマキンレイカなどの固有種に限られた場所に生育しています。これらは、生息面積が極端に狭く、保全対策が必要な種です。

植物観察の点から見ると、海岸は群落高が低く、潮風条件などに応じて多様な植物が生育しています。そのため多くの植物を観察するのが容易な場所です。ハマカンゾウ(図 12)、スカシユリ、ハマナデシコ、イソギクなどの花が季節に応じて海岸を彩ります。



図 12 海岸を彩るハマカンゾウ(大島 2019 年 8 月)

人里や道沿いの植物

伊豆諸島の植物の特徴として、人里や道沿いに固有性の高い植物を容易に観察できることがあげられます。例として、シマクサギ、シチトウタラノキ、シマナガバヤブマオ、アシタバ、ハチジョウイ



図 13 八丈島の法面

タドリ、オオバヤシャブシなどがあげられます。



図 14 図 13 の法面上に生育する伊豆諸島に固有性への固有性が高い植物。ハチジョウショウマとシマヤマブキショウマは東京都 RDB 種。

図 13 の道路沿いの法面には、小面積内に固有性が高い種（準固有種などを含む）が 9 種生育しています（図 14）。法面が伊豆諸島の植物にとって重要な生育地となっていることがわかります。火山の島々である伊豆諸島の固有種（変種）や準固有種（変種）は、攪乱跡地に生育する種が元々多いことと関係していると考えられます。

伊豆諸島の植物の特徴ある変化

伊豆諸島の植物の特徴ある変化として、ここでは以下の 7 項目をあげます。これらは、本土と島、島同士を比較することで認められる変化です。

- (1) 葉の大型化
- (2) 葉の光沢の増加と無毛化
- (3) 果実の大型化
- (4) 刺の退行
- (5) 花の芳香
- (6) 花冠の小型化
- (7) 島間の変異

以下それぞれを項目別に説明します。

(1) 葉の大型化

伊豆諸島の植物は本州の同種あるいは近縁種などと比べ、葉が大型化しているものが多くみられます。例として、落葉広葉樹では、ラセイタタマアジサイ（図 15、本州は変種のタマアジサイ）、オオムラサキシキブ（図 16、本州内陸部では変種のムラサキシキブ）、キブシ（図 17、伊豆諸島のものをハチジョウキブシとする見解もある）、エゴノキ（伊豆諸島のものをオオバエゴノキ（変種）とする見解もある）、常緑のツル植物では、テイカカズラ（伊豆諸島のものを変種のチョウジカズラとする見解もある）があげられます。他にも、大きい印象があるものもありますが、大型化は全体に落葉広葉樹で多くなります。

葉の大型化の要因は明らかにされていませんが、島は温暖かつ降雨量が多く、その一方で海洋性気候のため、夏は高温になりにくいといった気候的な要因が関係していると思われます。このような気候条件は、植物にとって乾燥ストレスを受けにくい環境条件と考えられます。

(2) 葉の光沢の増加と無毛化

葉の光沢の増加は、伊豆諸島の特有の変化ではなく、海岸植物全体に見られる傾向となります。クチクラ層を発達させ、潮風に対する耐性を高めていることとなります。例としては、テリハノブドウなどがあげられます。無毛化については、潮風の影響と共に、小型の昆虫などに対する防御効果（島では捕食者が少なく毛による防御をしなくてよいと考えることもできる。）などに関連している可能性もあります。

(3) 果実の大型化

果実の大型化はエゴノキ（図 18）、キブシなどで見られます。スダジイについても伊豆諸島のスダジイが大型傾向にあることが指摘されています。



図 15 三宅島と伊豆半島のタマアジサイ(三宅島はラセイタタマアジサイ)の比較例。

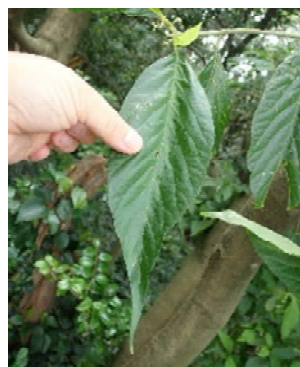


図 16 三宅島のオオムラサキシキブの葉



図 17 三宅島のキブシの葉

図 18 エゴノキの種子の比較例(三宅島と茨城県)



(4) 刺の退行

伊豆諸島の植物は本土のものに比べ刺が少ないものが多くなります。刺は捕食者に対する物理的な防御なので、伊豆諸島にシカ、イノシシ、サルなどの中大型の草食性哺乳類が生息していないことと関係していると考えられます。例としては、タラノキとシチトウタラノキ（図 19）、カラスザンショウ、サルトリイバラなどがあります。また、キイチゴ属については、カジイチゴとハチジョウイチゴという刺を欠く種（伊豆諸島以外にも分布）が広く分布し、カジイチゴは優占群落を作ります。また、島間の相違も大きく、大島のタラノキは本州と同じ程度の刺がある個体が多数を占めます。



図 19 タラノキ、シチトウタラノキの刺の比較例。千葉県と大島はタラノキ、三宅島と青ヶ島はシチトウタラノキとされている。

(5) 花の芳香

伊豆諸島の植物は本土の近縁種に比べ、花の芳香が強くなるものがあります。例としては、ニオイウツギ（図 20、本州の変種ハコネウツギとの比較）、ニオイエビネ（近縁種のエビネとの比較）があげられます。このような変化は島と本土との訪花昆虫の相違を反映していると考えられます。花の芳香を利用して夜間に活動する蛾などが重要な訪花昆虫となっているためという指摘があります。



図 20 ニオイウツギ(三宅島)

(6) 花冠の小型化

シマホタルブクロで顕著にみられる傾向です（図 21）。この傾向はハチジョウイボタやニオイウツギにも見られ、ハチジョウイボタは変種のオオバイボタに比較して、ニオイウツギは変種のハコネウツギと比較して花冠が短くなっています。シマホタルブクロについては井上健博士により詳細な研究がなされています（Inoue 1993 など）。シマホタルブクロの花冠の小型化は主たる訪花昆虫の大きさと対応しており、本州では大型のマルハナバチ類が主たる訪花昆虫となっ



図 21 ホタルブクロ、シマホタルブクロの比較例。新潟県のは近縁種のホタルブクロ、大島と三宅島はシマホタルブクロ。

ている一方で、大島を除く伊豆諸島にはマルハナバチ類が分布していません。そのため、コハナバチなどの小型のハチなどが主たる訪花昆虫となっています。このような、訪花昆虫との適応進化の結果、花冠が小型化したと考えられています。なお、大島にはコマルハナバチ 1 種が分布しています。関連して大島のシマホタルブクロは、他の島のものより花冠が大きい、やや中間的な傾向となります。

(7) 島間の変異

島間で植物の形態等が異なることが観察されます。これらの相違は、刺の退行や花の小型化のように、要因がある程度解明されているものや、要因を推定できるものもあります。その一方で、まだわかっていない変異があります。例として、サクユリとツリガネニンジンをあげます。サクユリ（伊豆諸島固有変種）には花に褐色の斑がありますが、その数は個体によって異なります（図 22）。例えば、神津島では斑の多い個体の頻度が高いのですが、最南端の青ヶ島では、斑のない個体のみになります。ツリガネニンジン



図 22 神津島と青ヶ島(撮影:荒井)のサクユリの花の比較例。

については、通常の記載では、花柱が突出するのが特徴とされます。一方、伊豆諸島のもの（ハマシャジンとして区別する見解もある）は、大島では突出するものの、神津島や三宅島では突出しません。いずれも訪花昆虫と関係していると予測されます。島間の変異については、今後の研究の進展に期待が寄せられます。

植物と鳥の関係

伊豆諸島には三宅島のようにバードアイランドとして知られる島もあります。植物の果実は鳥の餌となり、植物に着く虫も同様です。ここでは、少し変わった例として、ヤブツバキとメジロ（図 23）、ヤマガラとスダジイ・エゴノキ（図 24、25）について紹介します。まず、ヤブツバキとメジロについてです。メジロはヤブツバキ花の蜜を吸い、訪花昆虫のように花粉を運ぶ役割を果たします。ヤブツバキの多い伊豆諸島では、メジロがヤブツバキの花を訪れる様子を冬から春にかけてよく観察することができます。

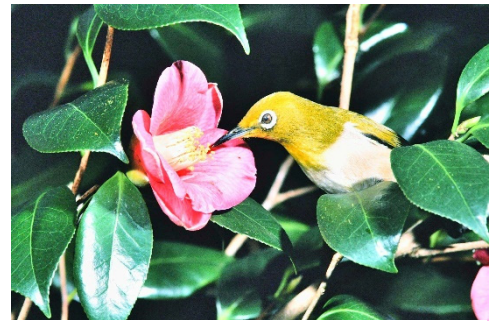


図 23 ヤブツバキの花とメジロ(三宅島、撮影:津村)

一方、ヤマガラは、貯食行動を通じて、植物と関わり合います。ヤマガラが餌とする種子として、スダジイとエゴノキの種子があります。ヤマガラはスダジイやエゴノキの種子を樹上で器用に固定し、種子を割って中を食べます。特にエゴノキについては有毒の白い果肉を取り除いて種子の中身のみを食べます。その場で食べられると、樹木の方は全く利点が無いことになります。

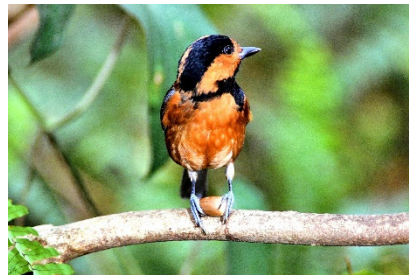


図 24 スダジイの種子を掴むヤマガラ(変種オーストンヤマガラ)(三宅島、撮影:津村)



図 25 スダジイの種子をつつくヤマガラ(変種オーストンヤマガラ)(三宅島、撮影:津村)

しかしヤマガラは種子の多くをその場で食べるのではなく、地面などに貯食するので、樹木にも利点があります。すなわち、貯食後、ヤマガラが食べなかった種子は発芽する機会を得ることになります。ヤマガラによって貯食される種子には、より遠くまで運ばれるという利点があります。

人と植物の関り

伊豆諸島の植物には、人の生活と関りを持つものがあります。ここでは、4 例をあげます。

(1) アシタバ

伊豆諸島を代表する山菜であり、栽培もされています。新芽や新葉は、てんぷら、お浸し、マヨネーズ和えなどで食べることができます（図 26、27、28）。独特の風味があります。栽培では、緑陰と土壌改良などを目的として、オオバヤシャブシが使用されます（図 29）。



図 26 アシタバ(利島)



図 27 アシタバのツナ・マヨネーズ和え(三宅島)



図 28 アシタバのナムル

(2) メダケ

メダケ（キボウシノとする見解もある）のタケノコも島では山菜として利用されます（図 30）。少し苦みがあり「にがったけ」あるいは「にがたけ」と呼ばれます。



図 30 メダケ(にがったけ)を入れた煮物(三宅島)

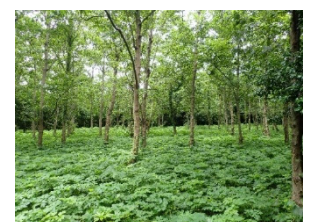


図 29 アシタバ畑(三宅島)

(3) オオバヤシャブシ

伊豆諸島では「はんのき」と呼ばれます。本種は窒素固定能力を持つ樹種（図 6）として有名ですが、島では切替畑に利用されてきました（図 31、32）。畑の地力が落ちると、本種を植栽して、森林化させ、地力が回復した後に耕作を再開するという方法です。

切替畑自体は近年では見かけることが少なくなっていますが、オオバヤシャブシをアシタバ栽培の緑陰に用いる手法は現在もよくみかけます。

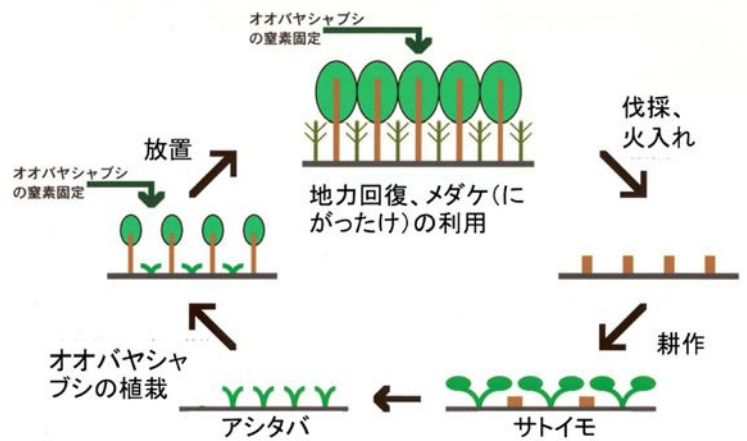


図 31 切替畑のイメージ図(三宅島で聞き取りと調査に基づく。作物については簡略化している。)

(4) ハチジョウススキ

伊豆諸島では馬草と書き「まぐさ」と呼びます。

「かや」と呼ぶことも多いです。かつて、ハチジョウススキは本州におけるススキなどと同様に、屋根の素材、家畜の餌、緑肥など、幅広く利用されてきたと考えられます。現在でも、畑の防風や緑肥、砂防緑化として用いられています。品種選抜なども行われ、典型的とされる「まぐさ」は、葉が幅広く、葉の縁にギザギザが、ほとんどないものになります（図 33、34）。

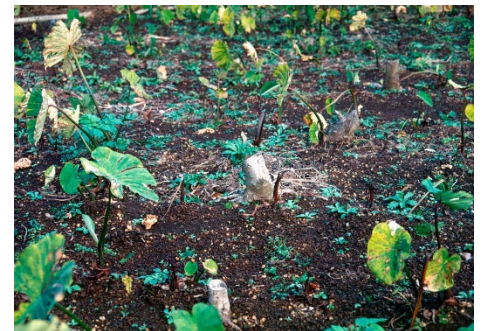


図 32 オオバヤシャブシの切り株とサトイモ(三宅島 1990 年代)

図 34 ススキ、ハチジョウススキの葉のギザギザの比較例。茨城県のものススキ。神津島のは路傍に生育していた個体(ハチジョウススキと思われる個体)、三宅島のは耕作地脇に植栽されていた個体(典型的なハチジョウススキ)。全くギザギザがない。

茨城県
神津島
三宅島

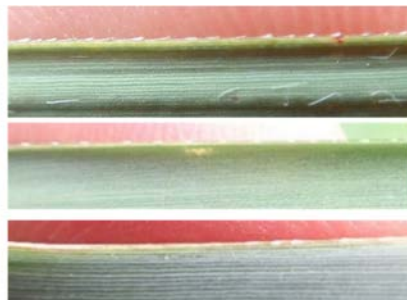


図 33 耕作地脇に植栽されたハチジョウススキ(三宅島)

なお、本ガイドでは扱うことができませんでしたが、以上の他にも、ツゲ、ハチジョウグワ、ヤブツバキなど多くの有用植物があります。

島の植物の保全

以上、伊豆諸島の植物の特徴と魅力的な面について述べてきましたが、ここでは、保全上の課題について述べます。

(1) 外来種対策の必要性

伊豆諸島をはじめとする海洋島の特徴の一つとして、本土と比べ種数が少ないこと、またその少なさには分類群によって偏りがあることがよく知られています。まず植物自体ですが、例をあげると、ブナ科植物がスダジイを除いて分布していないことがあげられます。大島のシラカシなどは、自生の可能性もありますが、基本的には、シラカシ、アラカシ、ウラジログシ、コナラ、クリ、マテバシイなどの暖温帯に生育するブナ科を欠いています。また、すでに述べたように大型の草食哺乳類を欠くことも特徴です。このような島の生態系は、ニッチの空気が大きく、外来種が侵入しやすいとされ、その悪影響も大きくなります。島の生態系保全において外来種を持ち込まないことが極めて重要です。

次に固有性の保全の課題があります。島の植物は海により隔離されているため、固有種や固有変種以外の種を含めて、集団として一定程度の分化をしていると考えられます。しかし、交配可能な植物を本土から持ち込むことや、島間を移動させることは、遺伝子レベルでの固有性を低下させます。

しかし、伊豆諸島においても上記の外来種の問題が生じています。哺乳類を例にあげると、八丈小島のノヤギ（駆除完了）、新島のニホンジカ、大島のキョン、タイワンリス、タイワンザルなどです。特に現在問題となっているのは大島のキョンです。駆除事業が進行する一方で、希少種を含む多くの島の植物が依然としてキョンの食害影響を受け、島内での絶滅が危惧されています。一方、八丈小島については、ノヤギ駆除が完了し、植物の回復だけでなく、クロアシアホウドリをはじめ繁殖する海鳥の種数や個体数が増加しています。駆除には多大なコストがかかりますが、効果があることが実証されています。

(2) 盗掘の防止

島の植物はもともと個体数が少なく、盗掘に対して脆弱です。一方、島の NGO や行政の活動、自然保護条例の整備などによって、盗掘を防止させる圧力は高まっています。今後のより一層の対策強化が期待されます。

(3) 調査研究と普及活動の必要性

生態系を保全する上で基礎データは欠かせません。伊豆諸島については、研究が一定の速度で進行する一方で、一定の基準で作成した植物リストなどの新しいものはありません。基礎研究が不足しているのが現状であり、課題です。次に、島の植物の魅力を多くの人に理解してもらうことも大きな課題です。保全活動の輪を広げてゆく上で、まずその魅力を伝えることができる資料、イベント、人材育成が重要です。伊豆諸島植生研究グループでは、これらの課題に貢献できるよう今後も広く活動を継続します。

伊豆諸島の種子植物図鑑

記載形式について

ここでは、伊豆諸島に自生する植物の内の約 160 種についてごく簡単に紹介します。種名については、原則として「改訂新版 日本の野生植物 1～5」（大橋ほか編、2015～2017、平凡社）に従いました。また、一部の変種、品種等の扱いについては、米倉・梶田（2003-）「BG Plants 和名－学名インデックス」（YList）に記載されている名称を用いるあるいは併記しました。学名に続き、それぞれの種の目・科・属、伊豆諸島内の分布状況、固有性、環境省 RDB（絶滅危惧種リスト）のランク、東京都 RDB のランクを示しました。記載は、本グループによる観察記録と「改訂新版 日本の野生植物 1～5」（大橋ほか編、2015～2017、平凡社）の記載を参考にして作成しています。写真については、原則、島名、撮影年月、撮影者を示しています。

クロマツ *Pinus thunbergii* Parl. (マツ目 マツ科 マツ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の海岸林を特徴づける常緑針葉樹。本州以南の海岸に分布する。近縁種のアカマツとともに、針葉が2本束生するのが特徴。クロマツは冬芽の鱗片は白色なのも特徴（アカマツは赤褐色）。アカマツは伊豆諸島には分布しない。式根島や神津島の天上山には風衝により低木化したクロマツが見られる。式根島では、クロマツとスダジイの混交林が広がっている。海岸林育成のため植栽もされている。



クロマツの花と新枝。白い鱗片に覆われる。
(三宅島 2007 年 3 月、上條)

イヌマキ *Podocarpus macrophyllus* (Thunb.) Sweet (マツ目 マキ科 マキ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の常緑広葉樹林の構成種の一つ。常緑針葉樹であるが、葉は幅広いのが特徴。幹は通直。伊豆諸島の自生樹木の中で特徴的である。雌雄異株。花托の部分が肥大し、赤く熟すると食べることができる。庭木や生垣に利用される。社寺にも植栽され、天然記念物等に指定されているものもある。



クロマツの低木林。赤く見えるのはオオシマツツジの花。(式根島 2016 年 5 月、上條)



イヌマキ(三宅島 2020 年 8 月、上條)



イヌマキの種子(神津島 2007 年 10 月、石田)



オオシマハイネズ(式根島 2016 年 5 月、上條)

オキナワハイネズ(オオシマハイネズ) *Juniperus taxifolia* Hook. et Am. var. *lutchuensis* (Koiz.) Satake (マツ目 ヒノキ科 ネズミサシ属)

伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の海岸を特徴づける地這性の常緑針葉樹。オオシマハイネズとも呼ばれる。奄美大島以南の琉球列島、東海、房総、伊豆諸島の海岸に分布する。神津島の天上山では標高 400m 超える場所でも見られる。緑色のカーペット状に生育し、特徴的である。雌雄異株。



カーペット状に生育するオオシマハイネズ。(式根島 2016 年 5 月、上條)

シキミ *Illicium anisatum* L. (シキミ目 マツブサ科 シキミ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の比較的高標高域に生育する常緑広葉樹。有毒植物。果実は八角形。種子は黄褐色で光沢がある。同じく有毒。仏前、墓前に供える。伊豆諸島でも栽培されている。本州以南に分布する。



シキミの花(三宅島 2017 年 2 月、島崎)

サネカズラ(ビナンカズラ) *Kadsura japonica* (L.) Dunal (シキミ目 マツブサ科 サネカズラ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島に広く分布する常緑性のツル植物。葉にはまばらに鋸歯がある。果実は球状で赤く熟す。雌雄異株。本州以南に分布する。

サネカズラ(三宅島 2018 年 3 月、上條)



サネカズラの実(三宅島 2016 年 12 月、島崎)

フウトウカズラ *Piper kazurae* (Choisy) Ohwi (コショウ目 コショウ科 コショウ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の低標高域の森林に生育する常緑性のツル植物。本州以南に分布。張り付きながら幹を上る。林床でテイカカズラと共に優占することが多い。葉は林床のものはハート型で、明るい場所のものは細長くなる。香辛料であるコショウと同属である。果実は赤く熟し、コショウと似た香りがする。



フウトウカズラ(三宅島 2019 年 6 月、上條)



フウトウカズラ(利島 2015 年 9 月、上條)



フウトウカズラの果実(三宅島 2016 年 3 月、穴原)

ヤブニッケイ *Chinamomum yabunikkei* H. Ohba (クスノキ目 クスノキ科 クスノキ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の常緑広葉樹林から海岸林に生育する常緑広葉樹高木。本州以南に分布。葉は長さ 6~12cm 程度。鋸歯はなく、三行脈が目立つ。花は小型で、クスノキ科に共通する 6 枚の花被片からなる。果実は液果で、黒色に熟す。枝を折ると明らかな芳香がある。芳香はクスノキ科全体の特徴であるが、ヤブニッケイは特に芳香が強い。香辛料のニッケイに近縁。なお、伊豆諸島にはクスノキは自生しない。



ヤブニッケイの樹皮(三宅島 2020 年 8 月、上條)



ヤブニッケイ(三宅島 2020 年 8 月、上條)

タブノキ *Machilus thunbergii* Siebold et Zucc. (クスノキ目 クスノキ科 タブノキ属) 伊豆諸島に広く分布

スダジイとともに伊豆諸島を代表する常緑広葉樹高木。高さ 20m 以上、胸高直径 1m 以上になる。葉は長さ 8~15cm 程度で鋸歯はなく、裏面が緑白色となる。花は小型で、6 枚の花被片



果実をつけたタブノキ(三宅島 2020 年 7 月、上條)

からなる。果実は液果で、果肉は緑色。八丈島、三宅島、青ヶ島では、特にタブノキ林が広面積に分布している。極相性の樹種であるが、スダジイよりもやや先駆的となる。オオバヤシャブシの二次林などにも比較的早く侵入する。三宅島の大路池湖畔にはタブノキの自然林が分布し、青ヶ島にはオオタニワタリが群生するタブノキ林が見られる。辺材は赤味を帯び、良質木材とされる。こぶ状の部分は模様が美しく、工芸的な価値がある。タミ、タミノキとも呼ばれる。



三宅島の大路池湖畔のタブノキ林(三宅島 2016 年 9 月、上條)



タブノキの花。花被片は 6 枚。(三宅島 2016 年 3 月、穴原)



タブノキの葉(表)(三宅島 2020 年 8 月、上條)



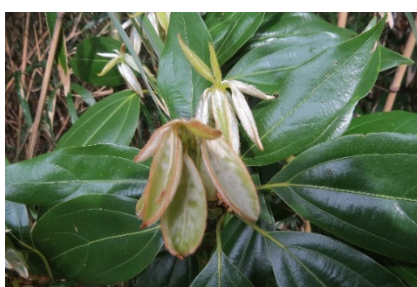
タブノキの葉。裏面は白色を帯びる。(三宅島 2020 年 8 月、上條)

シロダモ *Neolotsea sericea* (Blume) Koiz. var. *sericea* (クスノキ目 クスノキ科 シロダモ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の常緑広葉樹林に生育する常緑広葉樹高木。本州以南に広く分布する。葉は長さ 8~18cm 程度で鋸歯はなく、3 行脈が目立つ。葉の裏は白色を帯びる。新芽は光沢のある毛に覆われる。花は小型で、6 枚の花被片からなる。雌雄異株。果実は液果で、赤色に熟す。大島や新島では、オオシマザクラなどの落葉広葉樹二次林内にシロダモ稚樹や亜高木が多い。



シロダモ(三宅島 2016 年 3 月、島崎)



シロダモの新葉。密に毛に覆われる。(三宅島 2016 年 3 月、島崎)



シロダモの果実。熟すると赤くなる。(三宅島 2016 年 4 月、穴原)

ウラシマソウ *Arisaema thunbergii* Blume subsp. *urashima* (H. Hara) H. Ohashi et J. Murata (サトイモ目 サトイモ科 テンナンショウ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の低標高の森林内や林縁に生育する多年草。葉は数枚に見えるが、1 枚の複葉であり、茎に見える部分は葉の一部(葉鞘)であり、地下部の芋のような部位は偽茎と呼ばれる。花はテンナンショウ属特有の形状であり、仏炎苞と呼ばれる。花序の付属体が長く伸びるのが特徴。実は赤く熟す。有毒植物。



ウラシマソウの葉(大島 2013 年 8 月、牧口)



ウラシマソウの花(三宅島 2016 年 3 月、穴原)

シマテンナンショウ(ヘンゴダマ) *Arisaema negishii* Makino (サトイモ目 サトイモ科 テンナンショウ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島固有種

伊豆諸島固有種。低標高の森林内や林縁に生育する多年草。ウラシマソウと異なり、開花株は複葉を2枚出す。仏炎苞は黄緑色。実は赤く熟す。有毒植物であるが、地下部の芋のような部位(偽茎)は適切に処理すると食用となる。“ヘンゴ”などと呼ばれる郷土料理となっている。



シマテンナンショウ(青ヶ島 2018 年 2 月、上條)

リュウノヒゲモ *Potamogeton pectinatus* L. (オモダカ目 ヒルモシロ科 リュウノヒゲモ属) 伊豆諸島の一部 環境省カテゴリ:準絶滅危惧(NT)

沈水植物。三宅島の大路池に生育する。伊豆諸島には貯水池などを除くと、淡水の止水は少なく。水草は多くない。北海道から琉球の汽水、淡水に生育する。茎、葉とも非常に細い。



リュウノヒゲモ。花が水面に浮いている。(三宅島 2013 年 6 月、上條)

タヌキノショクダイ *Thismia abei* (Akasawa) Hatus. (ヤマノイモ目 タヌキノショクダイ科 タヌキノショクダイ属) 伊豆諸島の一部 環境省 RDB:絶滅危惧 I B 類、東京都 RDB:絶滅危惧 I 類

小型の菌従属栄養植物(腐生植物とも呼ばれる)。神津島で確認されている。共生する菌の菌糸を介して栄養を得ている。白色で、花茎は長さ1~4cm 程度。地上部も落ち葉の下に隠れている。非常に特徴的な形態をしている。西日本に点在分布する。



タヌキノショクダイ(神津島 2014 年 7 月、上條)

ヒナノシャクジョウ *Burmannia championii* Thwaites (ヤマノイモ目 タヒナノシャクジョウ科 ヒナノシャクジョウ属) 伊豆諸島の一部 東京都 RDB:絶滅危惧 I 類

小型の菌従属栄養植物(腐生植物とも呼ばれる)。森林の林床に生育する。共生する菌の菌糸を介して栄養を得ている。白色で、地上部は花序のみからなる。花は2から10個。長さ6~7.5mm。本州以南に分布する。



ヒナノシャクジョウ(神津島 2015 年 8 月、上條)

シロシャクジョウ *Burmannia cryptopetala* Makino (ヤマノイモ目 ヒナノシャクジョウ科 ヒナノシャクジョウ属) 伊豆諸島の一部の分布 東京都 RDB:絶滅危惧 I 類

小型の菌従属栄養植物(腐生植物とも呼ばれる)。森林の林床に生育する。共生する菌の菌糸を介して栄養を得ている。白色で、地上部は花序のみからなる。花は1から3個。長さ7~10mm。本州以南に分布する。



シロシャクジョウ(御蔵島 2013 年 10 月、上條)

ヤマノイモ *Dioscorea japonica* Thunb. (ヤマノイモ目 ヤマノイモ科 ヤマノイモ属) 伊豆諸島に広く分布

つる性の多年草。落葉性。伊豆諸島の林縁や低木林に広く生育する。葉は対生(互生する場合もある)。葉は細長く、基部は心形となる。根は肥厚し、食用となる。本州から琉球に分布する。



ヤマノイモ(三宅島 2016 年 7 月、島崎)

オニドコロ(トコロ) *Dioscorea tokoro* Makino (ヤマノイモ目 ヤマノイモ科 ヤマノイモ属) 伊豆諸島に広く分布

つる性の多年草。落葉性。伊豆諸島の林縁や低木林に広く生育する。葉は互生。葉は丸く、基部は心形となる。根は肥厚するが食用にならない。北海道から九州に分布する。



オニドコロ(三宅島 2016 年 7 月、島崎)

シマウチワドコロ *Dioscorea septemloba* Thunb. var. *sititana* (Honda et Jotani) Ohwi (ヤマノイモ目 ヤマノイモ科 ヤマノイモ属) 伊豆諸島に比較的広く分布 伊豆諸島の固有変種

伊豆諸島の林縁や明るい林内に生育するつる性の多年草。落葉性。キクバドコロの変種。伊豆諸島の固有変種。葉は掌状に 5 から 9 に中裂する。



シマウチワドコロ(神津島 2020 年 7 月、上條)

ウエマツソウ *Sciaphila secundiflora* Thwaites ex Benth. (タコノキ目 ホンゴウソウ科 ホンゴンソウ属) 伊豆諸島の一部 環境省 RDB:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

小型の菌従属栄養植物(腐生植物とも呼ばれる)。共生する菌の菌糸を介して栄養を得ている。地上部は赤紫色を帯びる。地上部は花序のみからなる。上部に雄花、下部に雌花がつく。雄花の花被は深く 6 裂し、開出する。本州以南に分布する。神津島で確認されている。

ホンゴウソウ *Sciaphila nana* Blume (タコノキ目 ホンゴウソウ科 ホンゴンソウ属) 伊豆諸島の一部 環境省 RDB:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

小型の菌従属栄養植物(腐生植物とも呼ばれる)。共生する菌の菌糸を介して栄養を得ている。地上部は赤紫色を帯びる。地上部は花序のみからなる。上部に雄花、下部に雌花がつく。雄花の花被は深く 6 裂し、丸く反り返る。本州以南に分布する。神津島で確認されている。



ウエマツソウ(神津島 2014 年 7 月、上條)



ホンゴウソウ(神津島 2015 年 8 月、上條)

ショウジョウバカマ *Helonias orientalis* (Thunb.) C. Tanaka (ユリ目 シュロソウ科 ショウジョウバカマ属) 伊豆諸島の一部

神津島や御蔵島の湿った崖、法面、風衝草原に生育する常緑多年草。葉はロゼット状に多数つく。花は早春。紫色であるが、乳白色のものから、濃紫色のものまで変異に富む。葉の先端から不定芽を出す。北海道から九州に分布。

ショウジョウバカマ(神津島
2015年3月、石田)



ハウチャクソウ *Disporum sessile* D. Don ex Schult. et

Schult. f. var. *sessile* (ユリ目 イヌサフラン科 チゴユリ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の林縁や明るい森林内に生育する多年草。落葉性。花は白く筒状。下に垂れて咲く。北海道から九州に分布。



ハウチャクソウの花(三宅島 2016年4月、菊地)

サルトリイバラ *Smilax china* L. (ユリ目 サルトリイバラ科 サルトリイバラ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の森林、草原、林縁に広く分布する。落葉性のツル植物。葉は丸い。バラのように茎には刺があるのが普通であるが、伊豆諸島のものは刺が少ない、あるいは無いものが多い。刺の無いものはトゲナシサルトリイバラと呼ばれる。葉で餅などを包む風習がある。果実は赤く熟し、リースなどを作るのに用いられる。また地下の塊茎や果実は薬草として用いられる。



サルトリイバラの花(三宅島 2016年4月、穴原)



サルトリイバラの果実(三宅島 2016年3月、穴原)



サルトリイバラ。刺が全くない個体。(大島 2020年8月、上條)

スカシユリ *Lilium maculatum* Thunb. (ユリ目 ユリ科 ユリ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸の崖や草原に生育する多年草。明るい法面にも生育する場合がある。花は5~8月。オレンジ色で斑点がある。斑点の無いものや黄色みが強い個体もある。6枚の花被片の根元には隙間があり、名前の由来である「透かしユリ」となっている。



スカシユリ(三宅島 2019年6月、上條)



法面に生育するスカシユリ(三宅島 2019年6月、上條)

サクユリ *Lilium auratum* Lindl. var. *platyphyllum* Baker (ユリ目 ユリ科 ユリ属) 伊豆諸島に広く分布 伊豆諸島固有変種 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

伊豆諸島を代表するユリ。タメトモユリとも呼ばれる。ヤマユリの変種。伊豆諸島の固有変種。林縁や草原に生育する。新しい火山堆積物上に生育することもある。本州に生育するヤマユリには、花弁に明瞭な斑があるが、サクユリは少なく、無斑のものもある。ヤマユリより葉が幅広いなどの相違もあり、別種とする見解もある。島内、島間の変異が見られ、青ヶ島では、無斑のもののみとなる。花は大型であり、園芸品種の作出に用いられた有用植物。鱗茎は食用となる。乱獲により大島などでは減少しており、保全活動が行われている。



サクユリ(大島 2007 年 8 月、仲山)



サクユリ(大島 2020 年 8 月、上條)



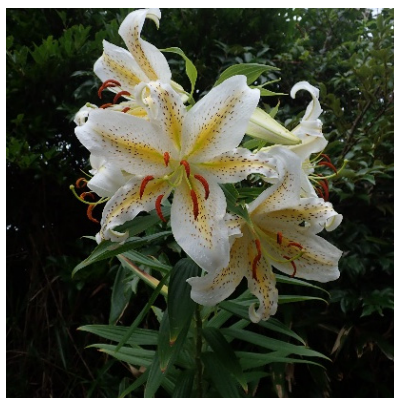
サクユリ(大島 2020 年 8 月、上條)



サクユリ(新島 2005 年 7 月、八木)



サクユリ(新島 2005 年 7 月、八木)



サクユリ(神津島 2019 年 7 月、上條)



サクユリ(三宅島 2020 年 6 月、上條)

マメヅタラン *Bulbophyllum drymoglossum* Maxim. ex Okubo (クサシギカズラ目 ラン科 マメヅタラン属) 伊豆諸島の一部 環境省 RDB:準絶滅危惧 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

樹上や岩上に生育する着生植物。茎は細長く匍匐し、幹を覆うように着生する。葉は 7~13mm と小さく、丸い。葉はシダ植物のマメヅタに似る。花は淡い黄色。



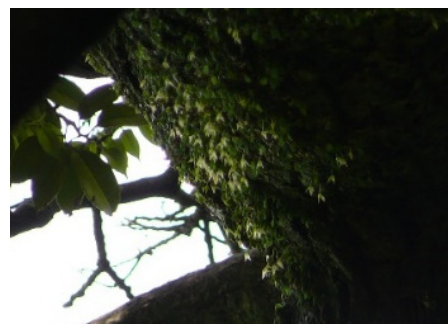
サクユリ(青ヶ島 2013 年 7 月、荒井)



サクユリ(青ヶ島 2016 年 7 月、荒井)



マメヅタラン(御蔵島 2007 年 5 月、上條)



マメヅタラン(御蔵島 2007 年 5 月、平田)

ムギラン *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim. (クサスギカズラ目 ラン科 マメヅタラン属) 伊豆諸島の一部
環境省 RDB:準絶滅危惧 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

樹上や岩上に生育する着生植物。葉は1～3cm。茎の上部(葉が出る部分)が肥厚し、よく目立つ。花は黄白色。本州から九州に分布。



ムギラン(八丈島 2013 年 8 月、牧口)



エビネ(2018 年 4 月、石田)

エビネ *Calanthe discolor* Lindl. (クサスギカズラ目 ラン科 エビネ属) 伊豆諸島の一部に分布 環境省:準絶滅危惧 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

森林の林床に生育する。個体数は少ない。葉は長さ 15～25cm。がく片と側花弁が暗褐色。唇弁は帯赤色または白色。北海道から琉球に分布する。コウツエビネは、本種とニオイエビネとの交雑種とされ、両種が分布する島では中間型が多い。

ニオイエビネ(オオキリシマエビネ) *Calanthe izuinsularis* (Satomi) Ohwi et Satomi (クサスギカズラ目 ラン科 エビネ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島の固有種 環境省:絶滅危惧ⅠB類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

伊豆諸島固有種。葉は長さ 30～45cm。がく片は白色から藤紫色。唇弁は白色または微紅色。葉には芳香がある。個体数が非常に少ない。保全対策が必要。



ニオイエビネ(御蔵島 2007 年 5 月、上條)

ナツエビネ *Calanthe puberula* Lindl. var. *reflexa* (Maxim.) M.Hiroe (クサスギカズラ目 ラン科 エビネ属) 伊豆諸島の一部 環境省:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

葉は長さ 10～30cm。花は淡紫色。エビネに比べまばらにつく。側学片は鋭尖頭で反曲する。花には芳香がある。個体数が非常に少ない。本州から九州に分布する。

ナツエビネ(2015 年 8 月、上條)



キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume (クサスギカズラ目 ラン科 キンラン属) 伊豆諸島の一部 環境省:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

やや明るい林床に生育する。個体数は少ない。開花個体の高さは 30cm 程度になる。花色は黄色。本州から九州に分布。

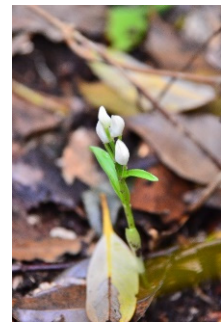


キンラン(神津島 2015 年 5 月、上條)

ユウシュンラン *Cephalanthera subaphylla* Miyabe et Kudô (クサスギカズラ目 ラン科 キンラン属) 伊豆諸島の一部 環境省:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅種(生育確認されており、絶滅種ではない)

常緑広葉樹林の林床に生育する。個体数は少ない。葉が退化し、鱗片状になっている。花は白色。北海道から九州に分布。

ユウシュンラン
(三宅島 2012 年
4 月、野田)



ナギラン *Cymbidium nagifolium* Masam. (クサスギカズラ目 ラン科 エビネ属)

伊豆諸島の一部に分布 環境省:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

常緑広葉樹林の林床に生育する。常緑性。葉は細長く光沢があり、樹木のナギに似ているのでこの名前がある。個体数は多くない。花は白色。本州以南に分布する。

ナギラン(三宅島 2019 年 6 月、上條)



ツチアケビ *Cyrtosia septentrionalis* (Rchb. f.) Garay (クサスギカズラ目 ラン科 ツチアケビ属 伊豆諸島に広く分布

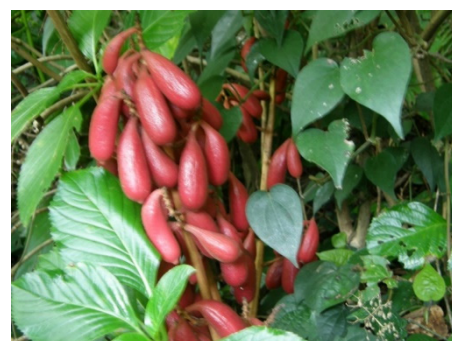
菌を介して栄養を得る菌従属栄養植物。他の植物に寄生する。森林から林縁に生育する。果実は赤くソーセージ状に熟する。実の形がアケビの実に似ることからこの名前がある。北海道から九州に分布。



ツチアケビの花(三宅島 2015 年 6 月、上條)



ツチアケビの花(三宅島 2015 年 6 月、上條)

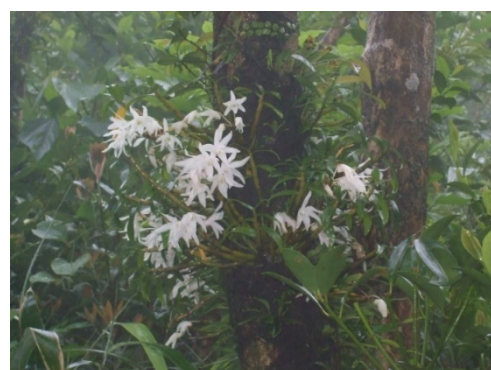


ツチアケビの果実(三宅島 2016 年 8 月、穴原)

セッコク *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw. (クサスギカズラ目 ラン科 セッコク属) 伊豆諸島の一部 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

樹上や岩上に生育する着生植物。茎は肥厚する。葉は 1~3cm。花は白色。赤や黄色を帯びる個体もある。芳香がある。本州以南に分布する。

セッコク(御蔵島 2010 年 6 月、上條)



カキラン *Epipactis thunbergii* A.Gray (クサスギカズラ目 ラン科 カキラン属) 伊豆諸島の一部 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

明るい森林や草原に分布する。落葉生。初夏に咲く。花色は黄色から黄褐色。唇弁には紅紫色の模様がある。北海道から琉球に分布。



カキラン(八丈小島 2019 年 7 月、上條)



カキラン(八丈小島 2018 年 6 月、上條)

オサラン *Eria japonica* Maxim. (クサスギカズラ目 ラン科 オサラン属) 伊豆諸島の一部 環境省:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

樹上に生育する着生植物。葉は2枚で5~8cm。茎は肥厚し、冬季にも目立つ。花は白色。本州以南に分布する。本州(伊豆諸島、紀伊半島)から琉球に分布。



オサラン(御蔵島 2007 年 5 月、平田)

ハチジョウシュスラン *Goodyera hachijoensis* Yatabe var. *hachijoensis* (クサスギカズラ目 ラン科 シュスラン属) 伊豆諸島に比較的広く分布 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類(オオシマシュスランを含む)

森林の林床に生育する。葉は3~4枚で長さ3~4cm。白色の帯状斑がある。小型で白色の花を密に総状につける。オオシマシュスランは本種の品種であり、カゴメランは本種の変種である。



ハチジョウシュスラン(八丈島 2013 年 8 月、牧口)



ハチジョウシュスラン(大島 2012 年 8 月、守)

オオシマシュスラン *Goodyera hachijoensis* Yatabe var. *hachijoensis* f. *izuohsimensis* Satomi (クサスギカズラ目 ラン科 シュスラン属) 伊豆諸島に比較的広く分布 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類(ハチジョウシュスランに含まれている)

森林の林床に生育する。葉は3~4枚で長さ3~4cm。白色の帯状斑がない。小型で白色の花を密に総状につける。ハチジョウシュスランの品種。ハチジョウシュスランとの中間的な個体もある。関東地方南部にも分布する。



オオシマシュスラン(八丈島 2013 年 9 月、牧口)



オオシマシュスラン(大島 2012 年 10 月、市川)

カゴメラン *Goodyera hachijoensis* Yatabe var. *matsumurana* (Schltr.) Ohwi (クサスギカズラ目 ラン科 シュスラン属) 伊豆諸島に比較的広く分布 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

森林の林床に生育する。葉は3~4枚で長さ3~4cm。葉の格子状の白い網目模様があり、「籠目ラン」という名前の由来となっている。小型で白色の花を密に総状につける。ハチジョウシュスランの変種。本州以南に分布。



カゴメラン(八丈島 2013 年 8 月、牧口)

アケボノシュスラン *Goodyera foliosa* (Lindl.) Benth. ex C. B. Clarke var. *laevis* Finet (クサスギカズラ目 ラン科 シュスラン属) 伊豆諸島に比較的広く分布 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

アケボノシュスラン(三宅島 2017 年 9 月、上條)



アケボノシュスラン(御蔵島 2013 年 10 月、上條)

森林の林床に生育する。低標高域には少ない。葉は 4～5 枚で長さ 2～4cm。淡紅を帯びた白色の花をつける。ハチジョウシュスランの仲間よりも花は大きい。北海道から九州に分布する。



シュスラン(三宅島 2017 年 9 月、上條)

シュスラン *Goodyera velutina* Maxim. (クサスギカズラ目 ラン科 シュスラン属) 伊豆諸島に比較的広く分布 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

森林の林床に生育する。低標高域には少ない。葉は長さ 2～4cm。中央に白い筋があるのが特徴的。淡紅を帯びた白色の花をつける。本州以南に分布する。アケボノシュスランとの雑種であるサイシュウシュスランが伊豆諸島から報告されている。

ヤクシマアカシュスラン *Hetaeria yakusimensis* (Masam.) Masam. ex E. Walker (クサスギカズラ目 ラン科 ヒメノヤガラ属) 伊豆諸島の一部 環境省:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

森林の林床に生育する。葉は長さ 3～8cm。葉柄は 1.5～3.5cm。中央に白い筋があるのが特徴的。淡紅を帯びた白色の花をまばらにつける。本州以南に分布する。



ヤクシマアカシュスラン(三宅島 2017 年 9 月、上條)

コ克蘭 *Empusa nervosa* (Thunb.) T .C. Hsu (クサスギカズラ目 ラン科 クモキリソウ属) 伊豆諸島に比較的広く分布 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

森林の林床に生育する。伊豆諸島の北部で多い。葉は長さ 5～12cm。暗紫色の花を 5～10 個まばらにつける。本州以南に分布する。



コ克蘭(神津島 2019 年 7 月、上條)

ユウコ克蘭 *Liparis formosana* Rchb. f.(シマササバラン *Liparis formosana* Rchb. f. var. *hachijoensis* (Nakai) Ohwi) (クサスギカズラ目 ラン科 クモキリソウ属) 伊豆諸島に広く分布 環境省:絶滅危惧Ⅱ類(シマササバラン) 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類(ユウコ克蘭)・絶滅危惧Ⅱ類(シマササバラン)

伊豆諸島のものはシマササバランとして区別する見解があり、多くの資料はシマササバランで記載されている。伊豆諸島の南部で多くなる。コ克蘭に似るが全体に大型。葉は長さ 5～18cm。暗紫色の花を多数つける。本州(紀伊半島)、伊豆諸島、九州、琉球に分布する。



ユウコ克蘭(シマササバラン)(青ヶ島 2015 年 5 月、上條)



ユウコ克蘭(シマササバラン)の花(三宅島 2013 年 6 月、上條)

ヨウラクラン *Oberonia japonica* (Maxim.) Makino (クサスギカズラ目 ラン科 ヨウラクラン属)伊豆諸島の一部に分布 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

樹上に生育する着生植物。下垂して着生する。4 から 10 枚の扁平な葉をつける。葉の長さは 1~4cm。小型で淡黄褐色の花を総状に密につける。本州以南に分布する。



ヨウラクラン(御蔵島 2007 年 5 月、平田)

ハチジョウツレサギ *Platanthera okuboi* Makino (クサスギカズラ目 ラン科 ツレサギソウ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島の固有種 環境省 RDB:絶滅危惧ⅠA 類、東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類 国内希少野生動植物種

明るい林内や草原に生育する。伊豆諸島の固有種。花は白色。距は 30~40mm と長い。個体数が少なく、特に保全が必要。



ハチジョウツレサギ(2016 年 5 月、上條)

ハチジョウチドリ *Platanthera mandarinorum* Rchb. f. subsp. *hachijoensis* (Honda) Murata var. *hachijoensis* (Honda) Ohwi (クサスギカズラ目 ラン科 ツレサギソウ属) 伊豆諸島の一部 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

草原などに生育する。伊豆諸島と琉球北部に分布する。ヤマサギソウの亜種とされる。花は白色で黄色を帯びる。大きく減少している島も多い。



ハチジョウチドリ(神津島 2015 年 5 月、上條)

ヒメケンラン *Tainia laxiflora* Makino (クサスギカズラ目 ラン科 ヒメケンラン属) 伊豆諸島の一部 環境省 RDB:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

常緑広葉樹林の林床に生育する。葉には白色の斑紋がある。花は黄色。伊豆諸島の他、四国、九州、琉球に分布する。



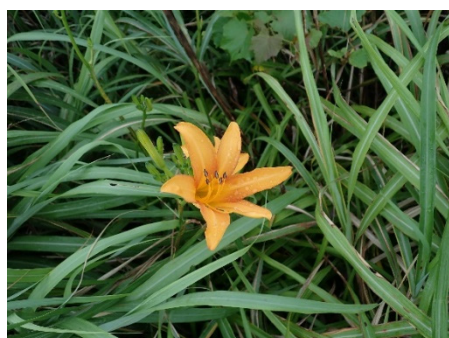
ヒメケンラン(神津島 2015 年 5 月、上條)



ヒメケンラン(神津島 2015 年 5 月、上條)

ハマカンゾウ *Hemerocallis fulva* L. var. *littorea* (Makino) M. Hotta (クサスギカズラ目 ススキノキ科 ワスレグサ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の海岸に生育する。刈り取りにより管理されている道路沿いにも生育する。ノカンゾウの変種とされる。初夏から夏にオレンジ色の花をつける。本州から九州に分布。



ハマカンゾウの花(三宅島 2019 年 6 月、上條)



海岸に群生するハマカンゾウ(三宅島 2020 年 7 月、上條)

ハマオモト *Crinum asiaticum* L. var. *japonicum* Baker (クサスギカズラ目 ヒガンバナ科 ハマオモト属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の海岸に生育する。葉は大型で多肉。葉は根元から出る。花は 6～9 月。芳香がある。種子は海水に浮く。本州以南に分布する。花が大きく美しく、植栽されることも多い。



ハマオモト(八丈小島 2019 年 7 月、上條)

イズイワギボウシ (ハチジョウギボウシ) *Hosta longipes* (Franch. et Sav.) Matsum. var. *latifolia* F. Maek (クサスギカズラ目 クラスギカズラ科 ギボウシ属) 伊豆諸島に比較的広く分布

伊豆諸島の湿った岩上に生育する。樹上や地上に生育する場合もある。葉は卵形。花は長さ 4cm 程度。薄紫色。イワギボウシの変種とされる。伊豆諸島と伊豆半島に分布。



イズイワギボウシ(神津島 2013 年 9 月、石田)

マイヅルソウ *Maianthemum dilatatum* (A. W. Wood) A. Nelson et J. F. Macbr. (クサスギカズラ目 クサスギカズラ科 マイヅルソウ属) 伊豆諸島の一部に分布

高標高域の草原・ササ草原の林縁に生育する。落葉生。葉は 2 枚。未開花個体は 1 枚。花は小型で白色。本州の冷温帯上部から亜高山帯に分布する。伊豆諸島では御蔵島の高標高域にのみ分布する。

アオノクマタケラン *Alpinia intermedia* Gagnep. (ショウガ目 ショウガ科 ハナミョウガ属) 伊豆諸島に広く分布

低標高の常緑広葉樹林内に生育する。常緑性の大型の草本。伊豆諸島の南部で多くなり、群生すること多い。花は白色でピンク色の線が目立つ。果実は赤く熟す。紀伊半島、伊豆諸島、四国、九州、琉球に分布。



マイヅルソウ(御蔵島 2019 年 3 月、上條) マイヅルソウ(御蔵島、星野)



アオノクマタケラン(三宅島 2019 年 6 月、上條)



アオノクマタケランの花(三宅島 2019 年 6 月、上條)



アオノクマタケランの果実(三宅島 2016 年 3 月、穴原)

イズノシマホシクサ *Eriocaulon taquetii* Lecomte var. *zyotanii* (Satake) Miyam. (イネ目 ホシクサ科 ホシクサ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島固有変種 環境省 RDB:絶滅危惧 I B 類 東京都 RDB:絶滅危惧 I 類

神津島の高標高の湿地に生育する 1 年生植物。ニッポンイヌノヒゲの変種とされるが、独立種とする見解もある。高さ 5~10cm。伊豆諸島の固有変種とされるが、他地域にも生育するという見解もある。湿地の植生変化に伴い、減少傾向にある。湿地の環境を含めた保全対策が必要である。



イズノシマホシクサ(神津島 2014 年 7 月、上條)



イズノシマホシクサの群生(神津島 2014 年 7 月、上條)

シマタヌキラン *Carex okuboi* Franch (イネ目 カヤツリグサ科 スゲ属) 伊豆諸島に比較的広く分布 伊豆諸島固有種 環境省 RDB:準絶滅危惧 東京都 RDB:準絶滅危惧

伊豆諸島の火山荒廃地に生育する落葉生の草本。株状になる。伊豆諸島の固



シマタヌキラン(三宅島 2020 年 6 月、上條)



シマタヌキラン(三宅島 2016 年 5 月、上條)

ヒゲスゲ *Carex bongardii* Hook.et Am. (イネ目 カヤツリグサ科 スゲ属) 伊豆諸島に比較的広く分布

海岸に生育する常緑草本。伊豆諸島に多く生育するオオシマカンスゲより葉は幅広い。果実の鱗片の芒(のぎ)が長いのが特徴的。名前の由来(ひげ)となっている。



ヒゲスゲ(三宅島 2018 年 4 月、上條)

オオシマカンスゲ *Carex oshimensis* Nakai (イネ目 カヤツリグサ科 スゲ属) 伊豆諸島に広く分布 伊豆諸島固有種

森林の林床から暗い林縁に生育する。伊豆諸島の固有種とされる。伊豆半島での分布報告もある。伊豆諸島で非常に多い植物である。



オオシマカンスゲ(三宅島 2016 年 3 月、島崎)



林床に生育するオオシマカンスゲ(利島 2015 年 9 月、上條)

**イソヤマテンツキ *Fimbristylis sieboldii* Miq. ex Franch. et Sav. var. *sieboldii* (イネ目
カヤツリグサ科 テンツキ属) 伊豆諸島に広く分布**

海岸に付近に生育する。葉は非常に細い。海岸の裸地状の場所にも生育する。
本州以南に分布する。

イソヤマテンツキ(三宅島 2019 年 6 月、上條)



**メダケ *Pleiblastus simonii* (Carrière) Nakai (イネ目 イネ科 メダケ属)
伊豆諸島に広く分布**

海岸近くで群生するタケ・ササの仲間。青ヶ島や八丈小島のような比較的小型の島では標高 300m を超え、山頂部でも群生する。高さ 3m 以上になる。メダケの変種であるキボウシノとする見解もある。タケノコは食用となる。苦みがあることから「にがたけ」あるいは「にがったけ」と呼ばれる。本州から九州に分布する。

メダケ(青ヶ島 2014 年 6 月、上條)



**ハチジョウスズタケ *Sasa borealis* (Hack.) Makino et Shibata var. *viridescens* (Nakai) Yonek. (イネ目 イネ科 ササ属) 伊豆諸島の一部
伊豆諸島の固有変種**

山頂部のササ草原や雲霧低木林の林床に生育するササ。高さ 1~3m。スズタケの変種。伊豆諸島固有変種。

(注：ササ属については、「改訂新版 日本の野生植物 2」では網羅されていないことが記されており、本種に関する記載はない。)

ハチジョウスズタケ(利島 2015 年 4 月、上條)



ミクラザサ *Sasa jotanii* (Ke. Inoue et Tanimoto) M. Kobay. (イネ目 イネ科 ササ属) 伊豆諸島の一部

御蔵島と八丈島の山頂部のササ草原や雲霧低木林の林床に生育するササ。御蔵島では、広面積の群落を形成している。高さ 1~3m。主に日本海側に生育するチシマザサに近縁という見解がある。伊豆諸島の固有種。タケノコは食用となる。

ミクラザサ(御蔵島 2013 年 4 月、上條)



キシマノガリヤス *Deyeuxia autumnalis* (Koidz.) Ohwi (イネ目 イネ科 ノガリヤス属) 伊豆諸島の一部

山頂部の風衝草原に群生するイネ科植物。高標高域では林縁や法面にも生育する。伊豆諸島のものをシマノガリヤスとして区別する見解がある。キシマノガリヤスは、伊豆諸島の他、九州に分布する。



キシマノガリヤス(三宅島 2019 年 6 月、上條)

ハチジョウススキ *Miscanthus condensatus* Hack. (イネ目 イネ科 ススキ属) 伊豆諸島に広く分布

火山噴火跡地、海岸、伐採跡地などに生育する大型のイネ科植物。近縁種のススキに比べ、葉の縁のざらつきが少ないこと、ススキが落葉性であるのに対してハチジョウススキは常緑性であること、ススキに比べ葉が厚く、幅広であること、などの相違があるが、いずれも連続的である。中間的なものをエノシマススキと呼ぶ場合がある。ススキと思われる個体も伊豆諸島に生育する。畑の防風、緑肥、家畜の飼料として利用され、かつては茅葺屋根の材料とされた。マグサ（馬草）と呼ばれ、良質のものは系統に基づき育成されていた。



ハチジョウススキ(三宅島 2015 年 11 月、上條)



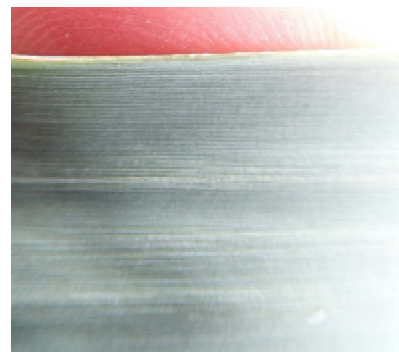
ハチジョウススキ覆われる三宅島の雄山(三宅島 2020 年 7 月、上條)



農耕地に脇に植栽されたハチジョウススキ(三宅島 2020 年 7 月、上條)



ハチジョウススキの葉の縁。少しざらつく個体(神津島 2020 年 7 月、上條)



ハチジョウススキの葉の縁。ほとんどざらつかない個体(三宅島 2020 年 7 月、上條)

ムベ *Stauntonia hexaphylla* (Thunb.) Decne. (キンポウゲ目 アケビ科 ムベ属) 伊豆諸島に広く分布

林縁や林内に生育する常緑のツル植物。葉は掌状複葉で、5～7 枚。花は白色。果実はアケビと同じく食用となる。本州以南に分布する。



ムベの果実(神津島 2020 年 9 月、石田)



ムベの花(三宅島 2018 年 4 月、上條)

センニンソウ *Clematis terniflora* DC. (キンポウゲ目 キンポウゲ科 センニンソウ属)伊豆諸島に広く分布

林縁、伐採跡地などに生育するツル植物。葉は1回または2回3出複葉。花は白色で花弁は4枚。果実に綿毛がつく。北海道から琉球に分布。

センニンソウ(三宅島 2020 年 9 月、上條)



サクノキ *Meliosma arnottiana* (Wight) Walp. subsp. *oldhamii* (Maxim.) H.

Ohba var. *hachijoensis* (Nakai) H. Ohba (アワブキ目 アワブキ科 アワブキ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島固有変種 環境省:絶滅危惧Ⅰ類 東京都RDB:絶滅危惧Ⅰ類

常緑広葉樹林の攪乱跡地や二次林に生育する高木。落葉または半常緑。葉は羽状複葉で複葉は13~15枚。果実は黒く熟する。フシノハアワブキの変種。伊豆諸島の固有変種。根萌芽を形成する。



サクノキ(神津島 2009 年 6 月、石田)



サクノキの根萌芽。写真中央の稚樹は、左の母樹から生じた根萌芽(利島 2015 年 9 月、上條)

ヤマグルマ *Trochodendron aralioides* Siebold et Zucc. (ヤマグルマ目 ヤマグルマ科 ヤマグルマ属) 伊豆諸島の一部

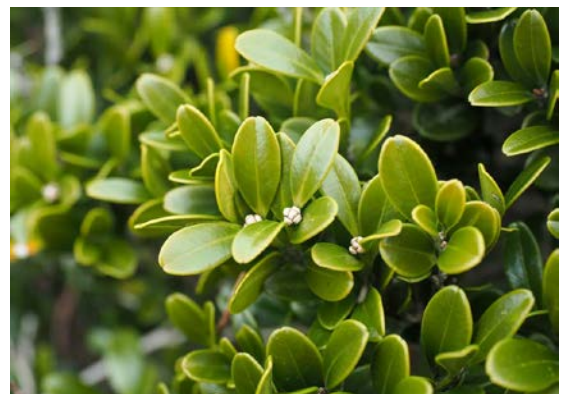
高標高域の雲霧低木林の主要構成樹種。常緑広葉樹。葉は輪生し、葉柄は長いものから短いものまでである。花は小型で花被片はない。かつては鳥もちとして利用された。植物学的には導管を欠き、仮導管を持つという特徴があり、被子植物としては特異的である。本州以南に分布する。



ヤマグルマ(神津島 2012 年 3 月、上條)

ツゲ *Buxus microphylla* Siebold et Zucc. var. *japonica* (Müll. Arg. ex Miq.) Rehder et E.H.Wilson (ツゲ目 ツゲ科 ツゲ属) 伊豆諸島の一部

高標高域の雲霧低木林の主要構成樹種。御蔵島では優占林を形成する。葉は小型で対生する。大きいものでは、樹高は10m、胸高直径30cmになる。場所によっては、高さ50cm程度に矮性化する。葉が比較的大きいものをベンテンツゲとして区別する場合がある。材質が優れており、御蔵島のツゲ材は有名であり、植林もされてきた。現在も将棋の駒、印鑑、アクセサリーなどに利用されている。本州から九州に分布。



ツゲ(神津島 2016 年 1 月、石田)

**ユズリハ *Daphniphyllum macropodum* Miq. var. *macropodum* (ユキノシタ目
ユズリハ科 ユズリハ) 伊豆諸島に比較的広く分布**

比較的高標高地に生育する常緑広葉樹高木。特に雲霧低木林に出現する。葉は大型で15~25cm。葉柄は赤くなる。新葉が出た後に旧葉は落ちるので、「譲り葉」の名前の由来となっている。

ユズリハ(御蔵島 2007 年 5 月、上條)



**ヒメユズリハ *Daphniphyllum teijsmannii* Zoll. ex Kurz (ユキノシタ目 ユズリハ科
ユズリハ) 伊豆諸島に広く分布**

ユズリハに比べ、低標高地に生育する常緑広葉樹高木。海岸近くのタブノキ林、海岸林、常緑広葉樹二次林に生育する。優占林を形成する場合もある。葉はユズリハより小さく6~12cm。縁が少し内側に巻く。本州以南に分布する。



ヒメユズリハ(三宅島 2020 年 7 月、上條)



ヒメユズリハ(三宅島 2016 年 4 月、穴原)

ハチジョウショウマ *Astilbe hachijoensis* Nakai (ユキノシタ目 ユキノシタ科 チダケサシ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島の固有変種 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

高標高地の岩上や風衝草原に生育する多年生の草本。葉は3回3出複葉。花は小型で白色であるが、花序全体は、20cm 以上になる。全体として泡が付いたように見える。トリアシショウマの変種。伊豆諸島の固有変種。



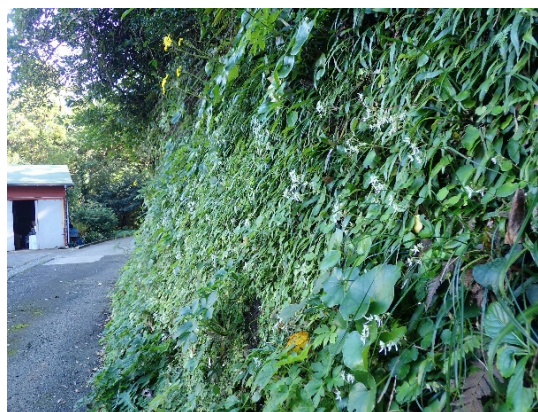
ハチジョウショウマの花(八丈島 2019 年 7 月、上條)



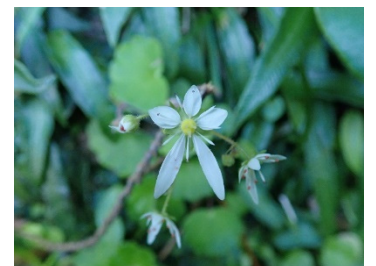
ハチジョウショウマ(八丈島 2019 年 7 月、上條)

イズノシマダイモンジソウ *Saxifraga fortunei* Hook. f. var. *jotanii* (Honda) Wakab. (ユキノシタ目 ユキノシタ科 ユキノシタ属) 伊豆諸島に比較的広く分布

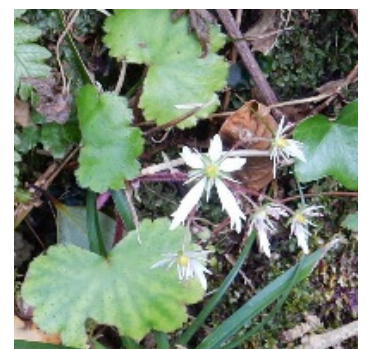
湿った崖や岩上、湿った法面などに生育する小型の草本。急傾斜の部分に生育する。葉は根生し、丸く立毛がある。花は5片で白色。「大」の字状に見えることが、ダイモンジソウの名前の由来となっている。ダイモンジソウの変種。伊豆諸島の他、房総半島南部に分布する。伊豆諸島の植物の典型的な分布様式の一つであり、島から本土に再侵入した可能性も示唆する。



イズノシマダイモンジソウが群生する法面(三宅島 2019 年 11 月、上條)



イズノシマダイモンジソウ(三宅島 2019 年 11 月、上條)



イズノシマダイモンジソウ。花弁が切れ込んだ個体。(御蔵島 2017 年 12 月、上條)

タイトゴメ *Sedum japonicum* Siebold ex Miq. subsp. *oryzifolium* (Makino) H. Ohba
var. *oryzifolium* (Makino) H. Ohba (ユキノシタ目 ベンケイソウ科 マンネング
サ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸の岩場に生育する小型の多肉植物。本種を含め海岸
には、乾燥耐性のある小型の多肉植物が生育する。葉は小さ
く、名前の「コメ」の由来となっている。花は5弁で黄色。
本州以南に分布する。

タイトゴメ(三宅島
2019年6月、上條)



ホザキノフサモ *Myriophyllum spicatum* L. (キンポウゲ目 アリトウグ
サ科 フサモ属) 伊豆諸島の一部 東京都RDB:絶滅危惧Ⅰ類

池や湖に生育する沈水植物。三宅島の大路池に生育する。伊豆諸
島には貯水池などを除くと、淡水の止水は少なく、水草は多くな
い。葉は羽状に細く深裂している。北海 道から琉球の淡水に生育する。

ホザキノフサモ。花が水面の上
に出ている。(三宅島 2013 年 6
月、上條)



テリハノブドウ *Ampelopsis glandulosa* (Wall.) Momiy. var. *hancei* (Planch.)
Momiy. (ブドウ目 ブドウ科 ノブドウ属) 伊豆諸島に広く分布

林縁、海岸の低木林、伐採跡地などに生育するツル植物。果実は、水色
から青色に熟し、特徴的。食用にはならない。葉には光沢があり、ノブド
ウの海岸型とされる。本州以南に分布する。



シチトウエビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. *izuinsularis* (Tuyama) H. Hara
(ブドウ目 ブドウ科 ブドウ属) 伊豆諸島に広く分布 伊豆諸島固有変種

林縁、海岸の低木林、伐採跡地などに生育するツル植物。葉の形はテ
リハノブドウに似るが、本種は裏面に白から褐色の綿毛が密生するのが
特徴的。果実は、黒色に熟し、食用となる。エビヅルの変種。

テリハノブドウ。未熟な果実がついている。
(大島 2020 年 7 月、上條)



シチトウエビヅル(三宅島 2020 年
6 月、上條)



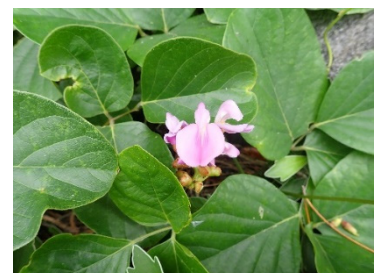
シチトウエビヅル。葉の裏側。(三
宅島 2020 年 6 月、上條)



道路沿いの林縁を覆うシチトウエビヅル(三宅島 2019 年 9
月、上條)

ハマナタマネ *Canavalia lineata* (Thunb.) DC. (マメ目 マメ
科 ナタマメ属) 伊豆諸島に比較的広く分布

海岸に生育するツル植物。葉は 3 枚の小葉からなる。
花はピンク色。本州以南に分布する。



ハマナタマメ(神津島
2019 年 7 月、上條)

マルバアキグミ *Elaeagnus umbellata* Thunb. var. *rotundifolia* Makino (バラ目 グミ科 グミ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸近くに生育する低木。ややツル性になる。葉は丸く、裏面は銀白色の鱗片に覆われ、白く見える。表面にも鱗片がある。花は白色で漏斗状。果実は球形で赤く熟す。伊豆諸島には本種の他、オオバグミとツルグミが生育するが、最も海岸に近くに生育するのは本種となる。本州以南に分布する。

マルバアキグミ
(青ヶ島 2012
年4月、荒井)



イヌビワ *Ficus erecta* Thunb. var. *erecta* (バラ目 クワ科 イチジク属) 伊豆諸島に広く分布

低標高の森林に生育する落葉広葉樹低木。常緑広葉樹の自然林にも生育する。枝を折ると、白い液が出る。花は、イチジク状花とよばれる特徴的な形態をしている。おしべやめしべは、いちじく状花の内側にある。雌雄異株。果実は熟すと食用になる。



イヌビワ(八丈島 2013 年 8 月、星野)



ハチジョウグワ *Morus kagayamae* Koidz. (バラ目 クワ科 クワ属) 伊豆諸島に広く分布 伊豆諸島固有種

主に二次林に生育する落葉広葉樹高木。急傾斜地などでは常緑広葉樹自然林にも高木として出現する。大きいものは直径 50 cmを超え、さらに大きいものもある。葉は大型で、深く切れ込むものも多い。果実は黒く熟し、甘く食用となる。神津島などには、黒くならない、赤身を帯びた白色の状態でも果実が甘くなるものがあり、"ミズガーノ"と呼ばれる。ハチジョウグワは材質も優れており、植林もされてきた。材を磨くと独特の光沢が出る。現在も、箸、アクセサリなどに加工されている。伊豆諸島固有種であるが、養蚕などを目的として本州から持ち込まれたヤマグワやマグワとの交雑個体も多い可能性がある。

イヌビワ(三宅島 2020 年 7 月、上條)

ハチジョウグワ(三宅島 2020 年 7 月、上條)



ハチジョウグワ(三宅島 2020 年 7 月、上條)



ハチジョウグワ。左がミズガーノと呼ばれるタイプ(神津島 2012 年 6 月、牧口)



ラセイトソウ *Boehmeria splitgerbera* Koidz. (バラ目 イラクサ科 ヤブマオ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸に生育する多年草。葉は厚く、硬く、細かいしわがあり、特徴的である。名前の由来(らせいた、らしゃ)にもなっている。本州南部から紀伊半島に分布する。

ラセイトソウ(神津島 2020 年 7 月、上條)



シマナガバヤブマオ *Boehmeria egregia* Satake (バラ目 イラクサ科 ヤブマオ属) 伊豆諸島に比較的広く分布 伊豆諸島固有種

草原や林縁に生育する多年草。高さ 2m 以上になる。葉は細長く、尾状に先が尖る。葉はやや厚く、しわがある。伊豆諸島固有種。ナガバヤブマオとラセイタソウとの交雑により生じたという見解がある。

シマナガバヤブマオ(三宅島 2020 年 9 月、上條)



ヤナギイチゴ *Debregeasia orientalis* C. J. Chen (バラ目 イラクサ科 ヤナギイチゴ属) 伊豆諸島に広く分布

林縁や伐採跡地などに生育する低木。落葉性。高さ 4m 程度になる。葉は細長く、名前の由来のようにヤナギの葉のような形状である。葉はやや厚く、しわがある。キイチゴに似た果実をつけ、名前の由来ともなっている。甘く食べることができる。本州以南に分布する。



ヤナギイチゴ(三宅島 2013 年 6 月、上條)



ヤナギイチゴの果実(三宅島 2013 年 6 月、上條)

ハドノキ *Oreocnide pedunculata* (Shirai) Masam. (バラ目 イラクサ科 ハドノキ属) 伊豆諸島の一部

青ヶ島の林縁や伐採跡地などに生育する低木。八丈島にも分布する。タブノキからなる常緑広葉樹二次林内にも生育する。常緑低木で、高さ 3~5m になる。葉は細長い。果実は白くなり、甘く、食べることができる。紀伊半島以南に分布する。

ハドノキの花(青ヶ島 2015 年 5 月、上條)



ハドノキ(青ヶ島 2015 年 5 月、上條)



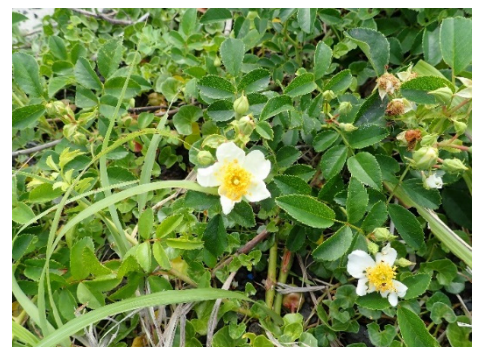
ハドノキ。果実をつけている。(青ヶ島 2018 年 2 月、上條)



テリハノイバラ *Rosa luciae* Rochebr. et Franch. ex Cr è p. (バラ目 バラ科 バラ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸、草原、林縁に生育するツル植物。海岸近くに多いが、山頂の風衝草原や湿地などにも出現する。葉は羽状複葉で 7~9 枚の小葉からなり光沢がある。茎には刺があるが、刺の少ない個体もある。花は白色で果実は赤く熟す。本州以南に分布する。

テリハノイバラ(三宅島 2019 年 6 月、上條)



ハチジョウイチゴ *Rubus ribisoideus* Matsum. (バラ目 バラ科 キイチゴ属) 伊豆諸島に比較的広く分布

伊豆諸島の落葉低木林、伐採跡地、林縁などに生育する。2m 程度になる。葉や茎はビロード状の毛に覆われ、独特の手触りがある。刺はない。花は白色で下向きに咲き、上向きに咲くカジイチゴと対照的。果実は甘く、食べることができる。本州(伊豆諸島以西)、四国、九州に分布。



ハチジョウイチゴ(三宅島 2016 年 3 月、穴原)

カジイチゴ *Rubus trifidus* Thunb. (バラ目 バラ科 キイチゴ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の落葉低木林、伐採跡地、林縁などに生育する。3m 程度になる。葉はカエデのように掌状に深裂する。全体無毛。刺はない。花は白色で上向きに咲き、下向きに咲くハチジョウイチゴと対照的。果実は甘く、食べることができる。本州から九州に分布。



カジイチゴ(三宅島 2016 年 3 月、島崎)



カジイチゴ(三宅島 2016 年 4 月、上條)



カジイチゴ(三宅島 2016 年 5 月、島崎)

**シマヤマブキショウマ *Aruncus dioicus* (Walter) Fernald var. *insularis* H. Hara (バラ目 バラ科 ヤマブキショウマ属) 伊豆諸島に比較的広く分布
伊豆諸島固有変種 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類**

伊豆諸島の高標高域の低木林、草原、林縁に生育する草本。夏緑生。葉は 2 回または 3 回 3 出複葉。花は白色で花弁とがく片は 5 枚。伊豆諸島固有変種。ヤマブキショウマの変種。



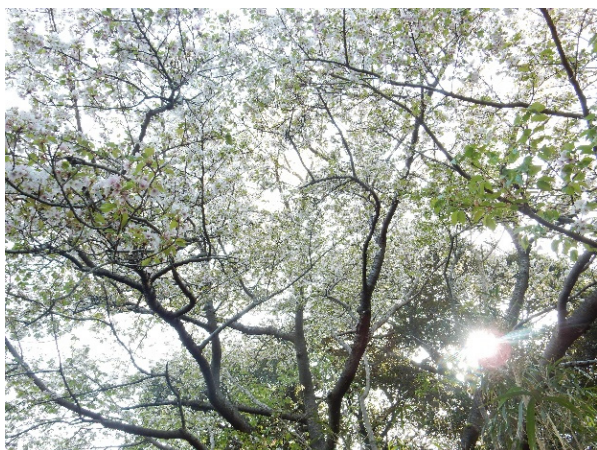
シマヤマブキショウマ(大島 2013 年 8 月、牧口)

オオシマザクラ *Cerasus speciosa* (Koidz.) H. Ohba (バラ目 バラ科 サクラ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の落葉広葉樹林の優占種。伐採の後に再生した二次林の他、火山噴火後の遷移途中相の森林に生育する。高標高域では常緑広葉樹林内にも生育する。葉は、針状に伸びる鋸歯と葉柄の蜜腺が特徴的。花は白色でサクラ属の中では最も大きい。開葉と同時に開花する。白い花と緑の葉が混じった姿が特徴的。花の色はピンク色を帯びるものもある。果実は熟すと黒色となり、甘く食べることができる。ソメイヨシノは本種とエドヒガンの交雑による成立した品種である。また、桜餅のサクラ葉は本種の葉である。現在は全国に広く植栽されているが、本来の分布は伊豆諸島のみ、あるいは伊豆諸島、伊豆半島、房総半島だったと考えられる。伊豆諸島の固有種あるいは準固有種となる。



オオシマザクラ(三宅島 2007 年 3 月、上條)



オオシマザクラ(三宅島 2018 年 3 月、上條)



オオシマザクラの巨樹(新島、八木)



オオシマザクラ(三宅島 2020 年 7 月、上條)



オオシマザクラの葉柄と蜜腺(三宅島 2020 年 7 月、上條)



オオシマザクラの鋸歯(三宅島 2020 年 7 月、上條)

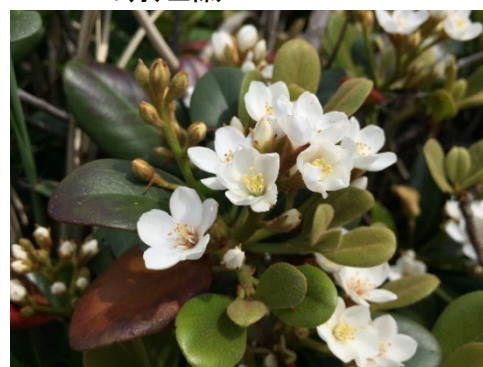


オオシマザクラ。三宅島の 1986 年溶岩上に定着した稚樹(三宅島 2018 年 4 月、上條)

シャリンバイ *Raphiolepis indica* (L.) Lindl. var. *umbellata* (Thunb.) H. Ohashi (バラ目 バラ科 シャリンバイ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸や海岸近くの森林に生育する常緑広葉樹。3m 程度になる。海岸近くでは 50cm ほどに矮性化する。葉が丸いものをマルバシャリンバイとも呼ばれ、伊豆諸島のものはマルバシャリンバイのタイプの個体が生育する。花は白色。果実は黒紫色。本州以南に分布。

シャリンバイ(三宅島 2016 年 4 月、菊地)



スダジイ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T. Yamaz. et Mashiba subsp. *sieboldii* (ブナ目 ブナ科 シイ属) 伊豆諸島に広く分布

常緑広葉樹林の優占樹種。樹高 20m を超え、胸高直径 1m を超える木も非常に多い。伊豆諸島の極相林はスダジイ林であり、御蔵島などではスダジイ自然林が広がっている。萌芽力が強く、萌芽二次林も多い。日本で最も太いとされるスダジイは御蔵島と三宅島の個体である。葉は裏面が褐色なのが特徴的。光沢もあり銅色や銀色に見える。尾状花序で花は小型であるが、樹冠全体を覆う。新葉は黄色く、展葉時は森全体が黄色く色づく。果実は堅果、いわゆる



スダジイ。御蔵島で最も太く、日本最大とされる。オオタニワタリが着生している。(御蔵島 2017 年 12 月、上條)

ドングリである。苦みがなく、生食できる。伊豆諸島の森を代表する樹木である。その一方で、近年、カシノナガキクイムシによる被害やスタジイタマバエによる成熟した果実の減少がみられる。本州以南に分布する。



スタジイ(三宅島 2020 年 9 月、上條)



スタジイ(三宅島 2020 年 9 月、上條)



スタジイ。開花している。主に雄花(式根島 2016 年 5 月、上條)



スタジイ。殻斗(どんぐりの帽子)は種子全体を覆い、熟すと開く(神津島、上條)



中央がスタジイタマバエに寄生された果実(果序)。右は正常な種子。(御蔵島 2017 年 12 月、上條)

ヤマモモ *Morella rubra* Lour. (ブナ目 ヤマモモ科 ヤマモモ属) 伊豆諸島に比較的広く分布

常緑広葉樹林に生育する高木。高さ 10m 程度になる。葉は長さ 5～10cm。細長い。雌雄異株。果実は赤く熟し、甘く、食用になる。本州以南に生育する。



ヤマモモの果実(神津島 2019 年 6 月、石田)

オオバヤシャブシ *Alnus sieboldiana* Matsum. (ブナ目 カバノキ科 ハンノキ属) 伊豆諸島に広く分布

噴火、伐採、耕作などの攪乱跡地に生育・優占する落葉広葉樹。噴火跡地に第一に定着する植物の一つ。高さ 10m 以上になる。葉はほぼ平行に並ぶ葉脈が目立つ。鋸歯はあらく尖る。尾状花序で構成する花は小さい。早春(3月)に開花する。果穂(果序)は松ぼっくりに似た形で、一つ一つの種子には小さい翼がついている。根には根粒があり、放線菌との共生関係を通じて空中窒素(窒素分子)固定することができる。伊豆諸島では、地力回復、アシタバなどの緑陰を目的として耕作地に植栽される。全国的には砂防緑化樹種として広く植栽され、自然分布を知ることは難しい。自生地は伊豆諸島と本州太平洋側の一部と考えられる。



オオバヤシャブシ。1983 年溶岩上に生育する個体。(三宅島 2018 年 4 月、上條)



オオバヤシャブシ。未熟な果実をつけている(大島 2020 年 7 月、上條)



オオバヤシャブシ。葉の表面。
(三宅島 2020 年 9 月、上條)



オオバヤシャブシ。葉の裏面。
(三宅島 2020 年 9 月、上條)



オオバヤシャブシ
の根粒(三宅島
2013 年 11 月、上
條)

オオバヤシャブシ。
1874 年溶岩上に生
育する大型個体。
(三宅島 2018 年 3
月、上條)



**ツルオオバマサキ *Euonymus japonicus* Thunb. f. *radicifer* (Nakai) Sugim.
(ニシキギ目 ニシキギ科 ニシキギ属) 伊豆諸島に広く分布**

海岸近くに生育する常緑低木。ツル性になる。海岸ではトベラなどとともに低木林を形成する。常緑広葉樹林内にも出現する。葉は対生する。花は白色。果実は赤く熟し、四つに開いて中から赤い種子が出てくる。マサキの品種。伊豆諸島、伊豆半島、房総半島、神奈川に分布する。



ツルオオバマサキ(大島 2020 年 7 月、上條)

**イズノシマウメバチソウ *Parnassia palustris* L. var. *izuinsularis* H. Ohba
(ニシキギ目 ニシキギ科 ウメバチソウ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島
固有変種 東京都 RDB: 絶滅危惧Ⅱ類**

神津島や御蔵島の高標高地の草原や岩場に生育する。道路の法面に生育する場合もある。高さ 5~20cm の草本。夏緑生。葉の基部は心形となる。花は白色で花弁は 5 枚。ウメバチソウの変種。ウメバチソウは本州などでは、冷温帯や亜高山帯に生育する種であり、温暖な伊豆諸島での分布は特異的である。



イズノシマウメバチソウ(神津島 2011 年 10 月、石田)

ホルトノキ *Elaeocarpus zollingeri* K. Koch var. *zollingeri* (カタバミ目 ホルトノキ科 ホルトノキ属) 伊豆諸島に広く分布

低標高の常緑広葉樹林に生育する常緑高木。高さ 20m 以上になる。葉は長さ 5~12cm。細長い。花は小型で白色。果実は細長く、はじめ緑色で熟すと黒くなる。甘く、食べることができる。



ホルトノキの花(神津島 2009 年 8 月、石田)

アカメガシワ *Mallotus japonicus* (L. f.) Müll.Arg. (キントラノオ目 トウダイグサ科 アカメガシワ属) 伊豆諸島に広く分布

伐採などの攪乱跡地に生育する落葉高木。葉は大きく 20cm 以上になる。新芽は赤く、名前の由来となっている。個々の花は小型で花弁はない。雌雄異株。果実には突起があり、熟すと黒い種子が出てくる。本州以南に分布。



アカメガシワ(三宅島 2020 年 7 月、上條)

アツバスマレ *Viola mandshurica* W. Becker var. *triangularis* (Franch. et Sav.) M. Mizush. (キントラノオ目 スミレ科 スミレ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸や路傍に生育する小型の草本。葉は根元から斜上する。スミレの変種であり、スミレに比べ葉が厚く光沢がある。花は紫色から白色まで変異に富む。白色のものはニイジマスミレと呼ばれる品種とされる。伊豆諸島、房総半島、三浦半島、伊豆半島に分布する。



アツバスマレ(御蔵島 2013 年 4 月、上條)



アツバスマレ(三宅島 2016 年 3 月、島崎)



アツバスマレ(三宅島 2016 年 3 月、穴原)



アツバスマレ(三宅島 2016 年 3 月、穴原)



アツバスマレ。ほとんど白色の個体。(新島 2012 年 3 月、上條)

ニイジマスミレ *Viola mandshurica* W. Becker var. *triangularis* (Franch. et Sav.) M. Mizush. f. *niijimensis* (Nakai) F. Maek. et T. Hashim. 伊豆諸島の一部 (キントラノオ目 スミレ科 スミレ属)

アツバスマレの白色の品種。新島に多い。



ニイジマスミレ。アツバスマレの品種(新島 2012 年 3 月、上條)



アツバスマレ(式根島 2016 年 5 月、上條)



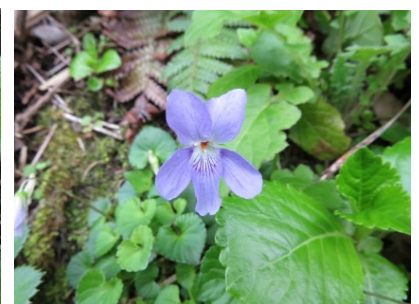
アツバスマレ(青ヶ島 2018 年 2 月、上條)

シチウスミレ *Viola grypoceras* A. Gray var. *hichitoana* (Nakai) F. Maek. (キントラノオ目 スミレ科 スミレ属) 伊豆諸島に広く分布

草原、明るい樹林の林床、路傍、法面に生育する小型の草本。葉は心形。タチツボスミレの変種。花は淡い紫色。伊豆諸島と伊豆半島南部に分布する。



シチウスミレ。(利島 2015 年 4 月、上條)



シチウスミレ。(三宅島 2016 年 4 月、島崎)

ハチジョウオトギリ *Hypericum hachijoense* Nakai (キントラノオ目 オトギリソウ科 オトギリソウ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島固有種 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

高標高域の岩場に生育する多年草。高さ 5~15cm。花は黄色。伊豆諸島の固有種。分布域が限られている。



ハチジョウオトギリ(八丈島 2018 年 8 月、牧口)

キブシ *Stachyurus praecox* Siebold et Zucc (ハチジョウキブシ
Stachyurus praecox Siebold et Zucc. var. *matsuzakii* (Nakai) Makino
ex H.Hara) (ミツバウツギ目 キブシ科 キブシ属) 伊豆諸島に広く
分布

二次林や伐採跡地に再生した低木林、谷沿いの攪乱跡地などに
生育する落葉低木。道路沿いにも多い。葉は細長く大きい 20 cm 以
上になる。花は淡い黄色。早春に咲く。果実は緑色で熟すと黒みを
帯びる。伊豆諸島のものは本州などのキブシに比べ、葉や果実が著
しく大きい。これらを変種ハチジョウキブシとして区別する見
解がある。北海道から九州に分布。



キブシ(三宅島 2020 年 7 月、上條)



キブシ(三宅島 2020 年 7 月、上條)



キブシ(三宅島 2016 年 3 月、穴原)



キブシ(三宅島 2020 年 7 月、上條)

オオモミジ *Acer amoenum* Carrière var. *amoenum* (ムクロジ目 ムクロジ科 カエ
デ属) 伊豆諸島の一部

大島などの高標高域の森林に生育する落葉広葉樹。葉は掌
状に深裂する。翼のあるカエデ属に特徴的な果実をつける。北
海道から九州に分布する。

オオモミジ(大島
2020 年 9 月、西谷)



ミヤマシキミ *Skimmia japonica* Thunb. var. *japonica* (ムクロジ目 ミカン科 ミヤマ
シキミ属) 伊豆諸島に比較的広く分布

高標高域の森林に生育する常緑低木。葉は厚い。葉には油点があり、ちぎる
と独特の臭いがする。果実は赤く熟し、森林内で目立つ。北海道から九州に分
布。



ミヤマシキミ(大島 2013 年 11 月、
上條)

カラスザンショウ *Zanthoxylum ailanthoides* Siebold et Zucc. var. *ailanthoides* (ム
クロジ目 ミカン科 サンショウ属) 伊豆諸島に広く分布

低標高の二次林や伐採跡地に生育する常緑高木。大きいものは 15m になる。
葉は羽状複葉。小葉は 11~21 枚。葉には油点があり、ちぎると独特の臭いがす
る。茎には刺があるが、伊豆諸島では刺が少
ない個体が多く、全く刺の無い個体もあり、
トゲナシカラスザンショウと呼ぶ。花は白
色。個々の花は小さいが、花序は大きく、直
径 30cm にもなる。本州から琉球に分布。



カラスザンショウ(三宅島 2020 年 7
月、上條)



カラスザンショウ(三宅島 2020 年
7 月、上條)

イソマツ *Limonium wrightii* (Hance) Kuntze var. *arbusculum* (Maxim.) H. Hara (ナデシコ目 イソマツ科 イソマツ属)

伊豆諸島の一部 環境省 RDB:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

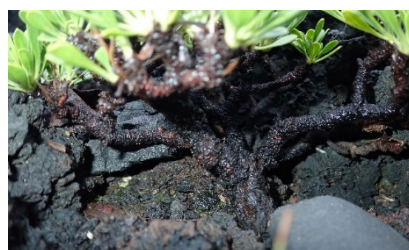
海岸の岩場に生育する。他の植物の生育しない裸地状の岩場にも生育する。小低木で高さ 20cm 程度にしかない。葉は小型で厚い。茎は太く松を思わせる形になり、語源ともなっている。がくは白色。花冠は筒状で紅紫色。伊豆諸島、小笠原諸島、硫黄島、宇治群島、草垣群島、種子島、屋久島、琉球に分布。



イソマツ(三宅島 2010 年 8 月、上條)



イソマツ(式根島 2016 年 5 月、上條)



イソマツの茎(三宅島 2019 年 6 月、上條)

ハチジョウイタドリ *Fallopia japonica* (Houtt.) Ronse Decr. var. *hachidyoensis* (Makino) Yonek. et H. Ohashi (ナデシコ目 タデ科 ソバカズラ属) 伊豆諸島に広く分布 伊豆諸島の固有変種

新しい噴火の跡地、伐採などの攪乱跡地に生育する多年草。噴火跡地に第一に定着する植物の一つ。高さ 3m になる。葉は 10cm 以上になる。花は乳白色。果実は 3 稜形となる。イタドリの変種。伊豆諸島の固有変種。



ハチジョウイタドリ(大島 2017 年 7 月、上條)



ハチジョウイタドリ(三宅島 2003 年 9 月、上條)



ハチジョウイタドリ。1983 年溶岩上。(三宅島 2018 年 3 月、上條)

モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* L. (ナデシコ目 モウセンゴケ科 モウセンゴケ属) 伊豆諸島の一部

高標高域の湿った崖や岩場に生育する小型の食虫植物。葉には昆虫などを捕える腺毛が生える。花は白色。北海道から九州に分布。

モウセンゴケ(神津島 2012 年 6 月、牧口)



ハマナデシコ *Dianthus japonicus* Thunb. (ナデシコ目 ナデシコ科 ナデシコ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸に生育する高さ 10~50cm の多年草。葉は光沢があり、厚い。花は紅紫色。花色の変異は大きい。本州から琉球に分布。花が白いものを品種として、シロバナハマナデシコという。



ハマナデシコ(三宅島 2019 年 6 月、上條)



ハマナデシコ。シロバナハマナデシコに当たる。(三宅島 2019 年 6 月、上條)

ウツギ *Deutzia crenata* Siebold et Zucc. var. *crenata* (ミズキ目 アジサイ科 ウツギ属) 伊豆諸島に広く分布

落葉広葉樹二次林や伐採跡地などに生育する落葉低木。高さ 3m 程度になる。葉は対生。星状毛が生えるが、伊豆諸島のものは星状毛が少ないものが多い。茎は中空で特徴的。花は白色。北海道から九州に分布。



ウツギ(三宅島 2013 年 6 月、上條)

ガクアジサイ *Hortensia macrophylla* (Thunb.) H. Ohba et S. Akiyama f. *normalis* (ミズキ目 アジサイ科 アジサイ属) 伊豆諸島に広く分布

落葉広葉樹二次林や伐採跡地などに生育する落葉低木。高標高域の攪乱跡地では優占することもある。道路沿いからもよく観察することができる。高さ 4m 程度になる。葉は対生で大型。伊豆諸島のものは特に大きい。葉は長さ 20cm 以上になる。無毛。花序の中央に種子をつける青色の花が集まる。周辺の花は装飾花で種子はつけない。白色で青みを帯びることが多い。伊豆諸島、小笠原諸島（北硫黄島、南硫黄島）、房総半島、三浦半島、伊豆半島に自生する。野生化とみられる分布も多い。栽培品種のアジサイは本種から作出された。



ガクアジサイ(三宅島 2019 年 6 月、上條)



ガクアジサイ。道路沿いを彩る。(三宅島 2019 年 6 月、上條)

ラセータマアジサイ *Platycrater involucrata* (Siebold) H. Ohba et S. Akiyama var. *idzuensis* (Hayashi) H. Ohba et S. Akiyama (ミズキ目 アジサイ科 バイカアマチャ属) 伊豆諸島に広く分布 伊豆諸島の固有変種

攪乱を受けた谷沿い、落葉広葉樹二次林や伐採跡地などに生育する落葉低木。谷沿いではガクアジサイと共に優占することもある。高さ 5m 程度になる。葉は対生で大型。長さ 30cm 近くになる。有毛。つぼみは丸く種名の由来となっている。花序の中央に種子をつける薄紫色の花が集まる。周辺の花は装飾花で種子はつけない。白色。タマアジサイの変種。タマアジサイに比べ葉が大きい。伊豆諸島の固有変種。



ラセータマアジサイ(三宅島 2020 年 6 月、上條)



ラセータマアジサイの花(三宅島、津村)



ラセータマアジサイのつぼみ(三宅島 2020 年 7 月、上條)

ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. var. *japonica* (ツツジ目 サカキ科 ヒサカキ属) 伊豆諸島に広く分布

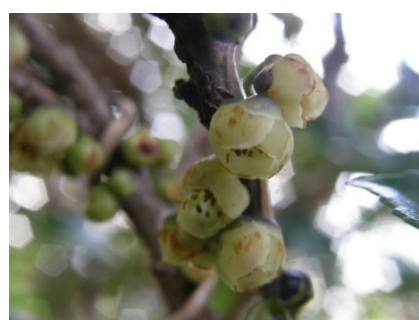
伊豆諸島の極相林から二次林に至る広く森林に生育する常緑広葉樹亜高木。高さ 10m 程度になる。高標高域の雲霧林では優占林を形成する。また、海岸林でも多くなる。葉には鋸歯がある。花は 3-5mm で黄白色下向きに咲く。独特の臭いがある。果実は熟すと黒色になる。本州から琉球に分布。サカキとともに神事に用いられる。



ヒサカキ(三宅島 2016 年 3 月、島崎)



ヒサカキ(三宅島 2020 年 9 月、上條)

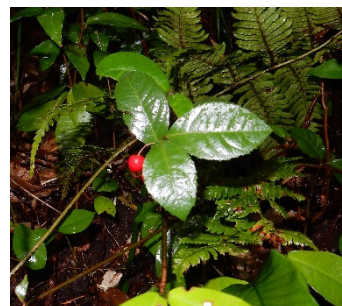


ヒサカキ(三宅島 2016 年 3 月、穴原)

ヤブコウジ *Ardisia japonica* (Thunb.) Blume var. *japonica* (ツツジ目 サクラソウ科 ヤブコウジ属) 伊豆諸島に広く分布

林床に生育する常緑小低木。高さは 10cm~20cm 程度。鋸歯はオオツルコウジやツルコウジに比べ、細かい。果実は赤く熟す。本州から九州、吐噶喇列島に分布する。変種のホソバヤブコウジとその品種のシラタマヤブコウジが伊豆大島から記録されている。

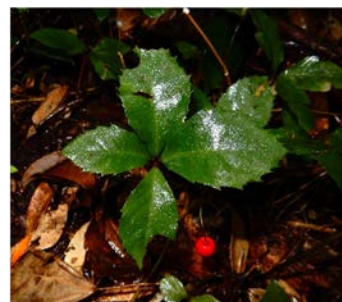
ヤブコウジ(三宅島 2017 年 1 月、上條)



オオツルコウジ *Ardisia walkeri* Yuen P. Yang (ツツジ目 サクラソウ科 ヤブコウジ属) 伊豆諸島の一部 環境省 RDB:絶滅危惧ⅠB類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

林床に生育する常緑小低木。高さは 10cm~20cm 程度。鋸歯はヤブコウジより粗い。果実は赤く熟す。伊豆諸島、本州(千葉以西)、九州、琉球(徳之島以北)に分布。

オオツルコウジ(三宅島 2017 年 1 月、上條)



ツルコウジ *Ardisia pusilla* A. DC. var. *pusilla* (ツツジ目 サクラソウ科 ヤブコウジ属) 伊豆諸島の一部 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

林床に生育する常緑小低木。利島に分布する。高さは 10cm~15cm 程度。鋸歯はヤブコウジより粗い。オオツルコウジやヤブコウジに比べ毛が多い。果実は赤く熟す。本州(千葉以西)から琉球に分布。

ツルコウジ(利島 2014 年 7 月、牧口)



ハマボッス *Lysimachia mauritiana* Lam. var. *mauritiana* (ツツジ目 サクラソウ科 オカトラノオ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸に生育する。高さ 5~20cm。葉は光沢があり多肉。花冠は白色で 5 裂する。北海道から琉球に分布する。

ハマボッス(三宅島 2016 年 6 月、島崎)



ヤブツバキ *Camellia japonica* L. var. *japonica* (ツツジ目 ツバキ科 ツバキ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の極相林から二次林に至るまで、広く森林に生育する常緑広葉樹高木。高さ 10m 以上になる。海岸林でも多くなる。葉は厚く光沢があり、鋸歯がある。花は径 5~7cm。冬から早春に咲く。花は赤色、紅紫色。果実は 2~4cm。裂開すると 2~数個の黒褐色の種子が現れる。種子は椿油となり、食用油に用いられる。さらに石鹸や化粧品などに加工される。材は固く、工芸品に用いられる。有用樹種であり、伊豆諸島において広く植栽されている。本種から多くの観賞用の栽培品種が作出された。本州から琉球に分布。



ヤブツバキ(御蔵島、星野)



ヤブツバキ(利島 2015 年 4 月、上條)



ヤブツバキの果実(利島 2015 年 9 月、上條)

エゴノキ *Styrax japonicus* Siebold et Zucc. (ツツジ目 エゴノキ科 エゴノキ属) 伊豆諸島に広く分布

伊豆諸島の落葉広葉樹二次林の主要構成樹種となる落葉広葉樹高木。火山遷移途中相の落葉広葉樹林にも出現する。花は白色で下向きに咲く。果実は白色でサポニンを含み有毒。果皮が割れると褐色の種子が一つ出てくる。伊豆諸島のものは、葉が大きく、果実も大きく、オオバエゴノキとして区別する見解がある。北海道から琉球に分布。



エゴノキ(三宅島 2016 年 4 月、穴原)



エゴノキ(三宅島 2019 年 6 月、上條)



エゴノキの果実(三宅島 2019 年 6 月、上條)

リョウブ *Clethra barbinervis* Siebold et Zucc. (ツツジ目 リョウブ科 リョウブ属) 伊豆諸島の一部

高標高域の低木林に出現する落葉広葉樹小高木。葉は長さ 6~15cm。花は白色で小さく、花序を形成する。花序全体は大きく、白く泡立つように見える。神津島などの流紋岩質の島で多い傾向にある。北海道から九州に分布。



リョウブの花(神津島 2013 年 7 月、石田)

ハコネコメツツジ *Rhododendron tsusiophyllum* Sugim. (ツツジ目 ツツジ科 ツツジ属) 伊豆諸島の一部 環境省 RDB:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

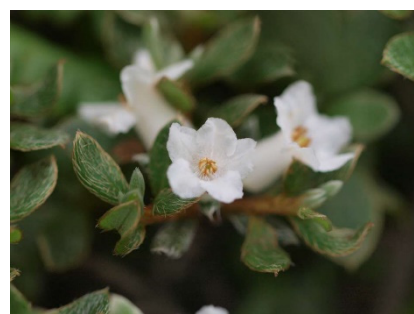
山頂部の矮性低木林やササ草原に生育する小低木。神津島と御蔵島に分布する。半落葉性。葉は小さく、5~10mm。毛が多い。花は白色で筒状。神津島には本種とオオシマツツジの雑種であるコウヅシマヤマツツジが分布する。伊豆諸島、関東地方南部、静岡に分布。



ハコネコメツツジ(御蔵島 2013 年 10 月上
條)



ハコネコメツツジ(御蔵島、上條)



ハコネコメツツジの花(神津島 2010 年
7 月、石田)

オオシマトツジ *Rhododendron kaempferi* Planch. var. *macrogemma* Nakai (ツツジ目 ツツジ科 ツツジ属) 伊豆諸島に比較的広く分布

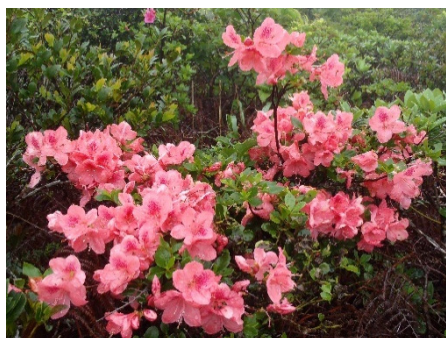
伊豆諸島の低木林に生育する半落葉低木。特に高標高域の低木林に多い。大きいものでは高さ 4m 程度になる。花は朱色。紅紫色のものもある。ヤマツツジの変種。伊豆諸島と伊豆半島南部に分布。本種とハコネコメツツジの雑種であるコウヅシマヤマツツジが神津島に分布する。



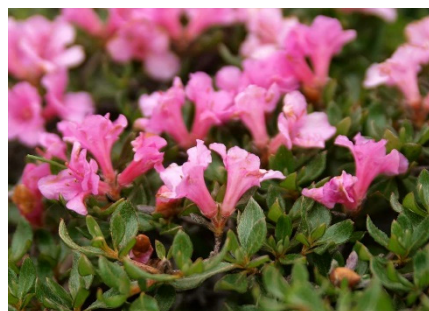
オオシマトツジ(式根島 2016 年 5 月、上條)



オオシマトツジ。周囲の白く見えるのは流紋岩質の火山砂。(神津島 2015 年 5 月、上條)



ヤマツツジ(神津
島 2012 年 6 月、
牧口)



コウヅシマヤマツ
ツジ(神津島 2010
年 6 月、石田)

シャシャンボ *Vaccinium bracteatum* Thunb. (ツツジ目 ツツジ科 スノキ属) 伊豆諸島の一部

伊豆諸島の低木林に生育する常緑低木。神津島や御蔵島などに分布。特に高標高域の低木林に多い。大きいものでは高さ 4m 程度になる。花は白色。本州から琉球に分布。



シャシャンボ(神津島 2012 年 6 月、牧
口)



シャシャンボ。新葉は赤い。(式根島
2016 年 5 月、上條)

アオキ *Aucuba japonica* Thunb. var. *japonica* (アオキ目 アオキ科 アオキ属) 伊豆諸島に広く分布

森林内に生育する常緑広葉樹低木。葉は常緑広葉樹としては大きく、10~25cm。対生する。花は小さく、花弁は4枚。果実は赤く、中に1個の種子が入っている。黄色い果実をつける個体もある。本州から琉球に分布。



アオキ(三宅島 2016 年 3 月、穴原)



アオキ(御蔵島 2011 年 3 月、上條)



アオキ。果実が黄色い個体。(御蔵島 2011 年 3 月、上條)

アリドオシ *Damnacanthus indicus* C. F. Gaertn. var. *indicus* (リンドウ目 アカネ科 アリドオシ属) 伊豆諸島に広く分布

常緑広葉樹林内に生育する常緑広葉樹低木。高さ 20~60cm。葉は 15~30mm で対生する。長い刺が特徴的で、葉の 2/3 より長い。花は白く漏斗状で 4 裂する。果実は赤く熟す。類似した種としてオオアリドオシやジュズネノキがある。本州から琉球に分布。

アリドオシ(三宅島 2016 年 4 月、菊地)



ヘクソカズラ *Paederia foetida* L. (リンドウ目 アカネ科 ヘクソカズラ属) 伊豆諸島に広く分布

林縁、海岸、伐採跡地、路傍などに生育するツル植物。葉は対生。茎や葉をちぎると独特の臭いがする。花は白色で内面は紅紫色。海岸型のものをハマサオトメカズラとして区別する場合がある。日本全土に分布。



ヘクソカズラ(八丈島 2018 年 8 月、星野)



ヘクソカズラ(八丈島 2018 年 8 月、牧口)

ソナレセンブリ *Swertia noguchiana* Hatus. (リンドウ目 リンドウ科 センブリ属) 伊豆諸島の一部に分布 環境省 RDB:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

海岸に生育する 1 年草。葉は多肉質で小さく対生する。花は黄白色で、紫色の筋が特徴的。伊豆諸島の一部と伊豆半島に分布。

ソナレセンブリ(新島、八木)



センブリ *Swertia japonica* (Schult.) Makino var. *japonica* (リンドウ目 リンドウ科 センブリ属) 伊豆諸島に比較的広く分布

草原に生育する一年草または越年草。法面などにも出現する。葉は細長く、対生し、1~5cm。花は白色。胃薬となる。非常に苦い。北海道から九州に分布。変種のヒロハセンブリが八丈島で記録されている。

センブリ(御蔵島 2013 年 10 月、上條)



テイカカズラ *Trachelospermum asiaticum* (Siebold et Zucc.) Nakai var. *asiaticum* (リンドウ目 キョウチクトウ科 テイカカズラ属) 伊豆諸島に広く分布

森林性のツル植物。常緑性。葉は対生する。茎や葉をちぎると白い液が出る。森林の林床に多い。樹木に登った場合、樹木全体を覆うこともある。花は白く、花筒は長い。果実は長く、20cm 以上になる。中に長毛がついた種子が入っている。伊豆諸島のものは葉が大きい。変種のチョウジカズラとして区別する見解がある。



テイカカズラ(三宅島、2019年6月、上條)



テイカカズラの果実(大島、2020年8月、上條)



テイカカズラ。林床を覆っている。(三宅島、2020年7月、上條)

ハマヒルガオ *Calystegia soldanella* (L.) R. Br. (ナス目 ヒルガオ科 ヒルガオ属) 伊豆諸島に広く分布

海浜に生育する多年草。茎は砂の上を這う。葉は長さ1~4cm。やや厚く光沢がある。花は淡いピンク色。北海道から琉球に分布。



ハマヒルガオ(三宅島 2016年4月、穴原)

ハチジョウイボタ *Ligustrum ovalifolium* Hassk. var. *pacificum* (Nakai) M. Mizush. (シソ目 モクセイ科 イボタノキ属) 伊豆諸島に広く分布 伊豆諸島固有変種

森林に生育する半常緑の小高木。二次林でより多く、伐採などの攪乱跡地にも生育する。10m程度になる。葉は対生する。花は白色。果実は黒く熟す。オオバイボタの変種。伊豆諸島固有変種。



ハチジョウイボタ。葉を光に透かした状態。(三宅島 2020年7月、上條)



ハチジョウイボタ(三宅島 2019年5月、上條)



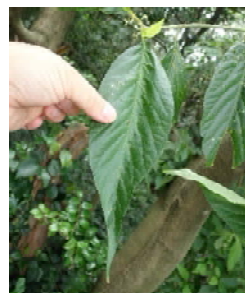
ハチジョウイボタ(三宅島 2016年3月、上條)

オオムラサキシキブ *Callicarpa japonica* Thunb. var. *luxurians* Rehder (シソ目 シソ科 ムラサキシキブ属) 伊豆諸島に広く分布

森林に生育する落葉小高木。伐採などの攪乱跡地にも生育する。高さ数m程度になる。葉は対生し、長さ20cm近くになる。花は淡い紅紫色から白色。果実は紫色に熟す。名前の由来ともなっている。ムラサキシキブの変種。ムラサキシキブより葉が大きい。本州から琉球に分布。



オオムラサキシキブ(三宅島 2020年6月、上條)



オオムラサキシキブ(三宅島 2020年7月、上條)



オオムラサキシキブ(三宅島 2019年6月、上條)



オオムラサキシキブ(青ヶ島 2018年2月、上條)

ハマゴウ *Vitex rotundifolia* L. f. (シソ目 シソ科 ハマゴウ属) 伊豆諸島に広く分布

海浜に生育する落葉小低木。茎は砂の中を這う。群生することが多い。葉は対生。毛が密生し裏面は灰白色。花は漏斗状でやや唇形。紫色。本州から琉球に分布する。



ハマゴウ(三宅島 2019 年 6 月、上條) ハマゴウ(神津島 2020 年 7 月、上條)

クサギ *Clerodendrum trichotomum* Thunb. var. *trichotomum* (シソ目 シソ科 クサギ属) 伊豆諸島の一部に分布

低標高地の落葉広葉樹二次林や伐採などの攪乱後に成立した低木林に生育する落葉低木から小高木。大島など伊豆諸島北部で多い。葉は大きく有毛。ちぎると臭いがし、語源となっている。花冠は白色。がくは赤紫色を帯びる。花には芳香がある。果実は熟すと黒紫色になる。北海道から琉球に分布。伊豆諸島には、変種のアマクサギも生育するとされる。



クサギ(大島 2020 年 8 月、上條)



クサギの花(大島 2020 年 8 月、上條)

シマクサギ *Clerodendrum izuinsulare* K.Inoue, M. Haseg. et S. Kobay. (シソ目 シソ科 クサギ属) 伊豆諸島に広く分布

低標高地の落葉広葉樹二次林や伐採などの攪乱後に成立した低木林に生育する落葉低木から小高木。葉は大きく無毛。ちぎると臭いがする。花冠は白色。がくは、クサギと異なり、緑色。花には芳香がある。三宅島以南の伊豆諸島にはクサギは自生せず、本種のみが自生する。果実は熟すと黒紫色になる。伊豆諸島、伊豆半島、三浦半島に分布。



シマクサギ(三宅島 2020 年 7 月、上條)



シマクサギ(青ヶ島 2019 年 10 月、上條)



シマクサギの花(三宅島 2020 年 8 月、上條)

ナンバンギセル *Aeginetia indica* L. (シソ目 ハマウツボ科 ナンバンギセル属)
伊豆諸島に比較的広く分布

草原や低木林に生育する 1 年生の寄生植物。イネ科などの単子葉植物に寄生し、ハチジョウススキの株の下に生育していることが多い。花は淡い紅紫色。北海道から琉球、小笠原に分布。

ナンバンギセル(三宅島 2020 年 9 月、上條)



ハチジョウコゴメグサ *Euphrasia hachijoensis* Nakai ex Furumi (シソ目 ハマウツボ科 コゴメグサ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島固有種 環境省 RDB:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

八丈島と御蔵島の山頂部の草原的環境に分布する 1 年草。高さは 5~10cm 程度と小型。花は白色。花には黄斑や紫色の筋がある。花には変異がある。伊豆諸島固有種。分布が限られており、保全対策が必要。



ハチジョウコゴメグサ(八丈島 2013 年 9 月、上條)



ハチジョウコゴメグサ(八丈島 2013 年 9 月、上條)



ハチジョウコゴメグサ(御蔵島 2013 年 10 月、上條)

イヌツゲ *Ilex crenata* Thunb. var. *crenata* (オオバイヌツゲ *Ilex crenata* Thunb. var. *crenata* f. *latifolia* (Goldring) Rehder、ハチジョウイヌツゲ *Ilex crenata* Thunb. var. *hachijoensis* Nakai) (モチノキ目 モチノキ科 モチノキ属) 伊豆諸島に広く分布

常緑広葉樹の小高木。森林に生育し、特に高標高で多くなる。風衝低木林では優占林を形成する。葉は 1~3cm と小型。品種のオオバイヌツゲの葉は 2~4cm と大型になる。伊豆諸島のものをハチジョウイヌツゲとする見解があり、多くの資料はこの名称が用いられている。品種のオオバイヌツゲは、伊豆諸島の北部(大島、神津島など)に分布するとされる。花は白色。果実は黒く熟する。本州から九州に分布。



イヌツゲ。オオバイヌツゲに相当する。花が咲いている。(大島 2020 年 7 月、上條)

ツリガネニンジン *Adenophora triphylla* (Thunb.) A. DC. var. *japonica* (Regel) H. Hara (キク目 キキョウ科 ツリガネニンジン属) 伊豆諸島の一部 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

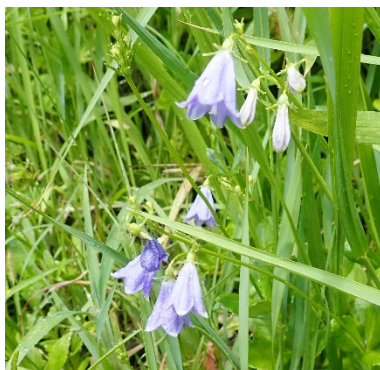
海岸や海岸近くの草原に生育する多年草。夏緑生。伊豆諸島のものはハマシャジンとする見解もある。高さ 50cm 程度。花は下向きに咲き、淡い紫色。白色のものもある。花の形にも変異があり、花柱が花冠から突き出るとされるが、大島以外の伊豆諸島の個体は、花柱が花冠から突き出ないものが多い。北海道から琉球に分布。



ツリガネニンジン。花柱が突き出る。(大島 2013 年 11 月、上條)



ツリガネニンジン。花柱が突き出ない。(神津島 2020 年 7 月、上條)



ツリガネニンジン。花柱が突き出ない。(三宅島 2020 年 9 月、上條)



ツリガネニンジン(三宅島 2020 年 9 月、上條)

シマホタルブクロ *Campanula microdonta* Koidz. (キク目 キキョウ科 ホタルブクロ属) 伊豆諸島に広く分布 伊豆諸島固有種

海岸近くの草原、海岸近くの法面などに生育する多年草。高さ 30~100cm。崖などに生育する個体は、垂れ下がるように生育する。花は白色で 4~7cm。大島では紫色の斑を持つものも多い。また、大島以南の個体は花が小さい。伊豆諸島固有種。近縁種はホタルブクロとヤマホタルブクロ。伊豆半島にも形態的に似た個体が分布する。



シマホタルブクロ。紫色の斑がある。(大島 2015 年 9 月、上條)



シマホタルブクロ(大島 2020 年 8 月、上條)



シマホタルブクロ(神津島 2014 年 7 月、上條)



シマホタルブクロ(三宅島 2014 年 8 月、上條)

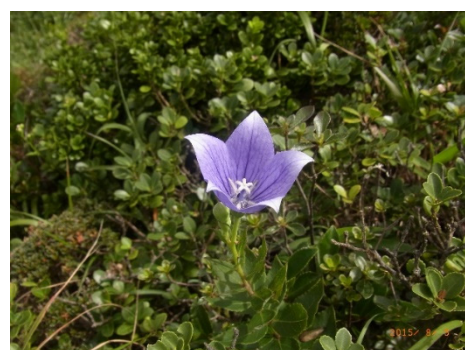


シマホタルブクロ(八丈小島 2019 年 7 月、上條)

キキョウ *Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A. DC. (キク目 キキョウ科 キキョウ属) 伊豆諸島の一部 環境省 RDB:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅種 (生育確認されており、絶滅種ではない)

草原や矮性低木林に生育する多年生草本。高さ 50cm 程度。花は青紫色。栽培品種も多い。北海道から奄美諸島に分布。

キキョウ(神津島 2015 年 8 月、上條)



ハチジョウアザミ *Cirsium hachijoense* Nakai (キク目 キク科 アザミ属) 伊豆諸島に広く分布 伊豆諸島固有種

草原、落葉樹林の林床、林縁などに生育する多年草。葉に刺があるが、触ってもいたくない個体もある。花は紫色。形態的な変異は非常に大きい。



ハチジョウアザミ(三宅島 2020 年 9 月、上條)



ハチジョウアザミの群生(八丈小島 2019 年 7 月、上條)

ミクラシマトウヒレン *Saussurea mikurasimensis* (Kitam.) Kadota (キク目 キク科 トウヒレン属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島固有種 環境省:絶滅危惧ⅠA類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類(記載名はミクラジマトウヒレン)

草原的な環境に生育する多年草。花は淡い紅紫色。伊豆諸島固有種。御蔵島固有種。

ミクラシマトウヒレン(御蔵島 2010年6月、上條)



ワダン *Crepidiastrum platyphyllum* (Franch. et Sav.) Kitam. (キク目 キク科 アゼトウナ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸に生育する多年草。葉は大きく厚い。白色を帯び、ちぎると白色の液が出てくる。花は黄色。夏から秋に咲く。伊豆諸島、千葉、神奈川、静岡に分布する。

ワダン(三宅島 2017年11月、島崎)



ツワブキ *Farfugium japonicum* (L.) Kitam. var. *japonicum* (キク目 キク科 ツワブキ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸や海岸近くの低木林や森林の林床、法面などに生育する多年草。常緑性。葉は大きく丸く、表面は光沢がある。花は黄色。秋から冬。葉柄が食用になる。本州から琉球に分布。

ツワブキ(三宅島 2016年3月、島崎)



モミジガサ *Parasenecio delphiniifolius* (Siebold et Zucc.) H. Koyama (キク目 キク科 コウモリソウ属) 伊豆諸島の一部

比較的明るい森林の林床や林縁に生育する多年草。落葉性。高さ 50 cm~120cm。葉は、深裂し、モミジの葉のようになる。名前の由来となっている。花は白色。若い葉や茎は食用となる。北海道から九州に分布。

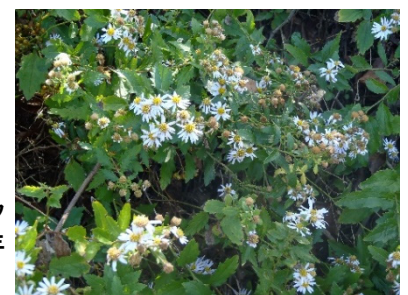
モミジガサ
(利島 2014年9月、八木)



ハマコンギク *Aster microcephalus* (Miq.) Franch. et Sav. var. *littoricola* (Kitam.) Nor. Tanaka (キク目 キク科 シオン属) 伊豆諸島に広く分布

草原、路傍、林縁などに生育する多年草。高さ 30cm~100cm 程度になる。花は白色。秋に咲くが、春に開花している個体もある。伊豆諸島、伊豆半島、江ノ島に分布する。

ハマコンギク
(大島 2012年10月、上條)



ハチジョウアキノキリンソウ *Solidago virgaurea* L. subsp. *leiocarpa* (Benth.) Hult é n var. *prae flore ns* (キク目 キク科 アキノキリンソウ属) 伊豆諸島に広く分布

草原、路傍、林縁などに生育する多年草。高さ 30cm~70cm 程度になる。花は黄色。秋に咲く。関東から伊豆諸島に分布する。



ハチジョウアキノキリンソウ(大島 2012年10月、前田)



ハチジョウアキノキリンソウ。小型で開花した個体。(大島 2013年11月、上條)

イソギク *Chrysanthemum pacificum* Nakai
(キク目 キク科 キク属) 伊豆諸島に
広く分布

海岸に生育する多年草。常緑。海岸では優占することも多く、伊豆諸島を代表する海岸植物。葉は厚い。裏面は毛に覆われ銀白色。花は黄色。甘く感じる強い香りがある。伊豆諸島、伊豆半島、関東の海岸に分布。



イソギク(三宅島 2016 年 4 月、菊地)



イソギクの優占群落(八丈小島 2019 年 7 月、上條)

トベラ *Pittosporum tobira* (Thunb.) W. T. Aiton (セリ目 トベラ科 トベラ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸の低木林の主要構成樹種。優占することも多い。常緑広葉の小高木。葉が裏側に巻くのが特徴的。花は白色で古くなると黄色になる。果実は熟すと割れ、赤い種子が出てくる。種子の表面は油分に富み、触るとねばねばする。本州から琉球に分布。



トベラ(三宅島 2019 年 6 月、上條)



トベラ(三宅島 2016 年 3 月、穴原)



トベラ(三宅島 2017 年 11 月、島崎)

タラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seem. (セリ目 ウコギ科 タラノキ属) 伊豆諸島の一部

伐採などの攪乱を受けた場所に生育する落葉広葉樹。高さ 3~5m になる。葉は大きく、50~100cm。2~3 回羽状複葉。小葉は 5~10cm。裏面はやや白色を帯びる。葉と茎に刺がある。花は小さく白色。果実は黒く熟す。伊豆諸島のタラノキ属は、本種とシチウタラノキからなる。神津島以南がシチウタラノキとされるが、神津島より北にも、ウラジロタラノキの特徴を持つと思われる個体がある。新芽や若葉は食用となる。北海道から九州に分布。



タラノキ(大島 2020 年 8 月、上條)



タラノキ(大島 2020 年 8 月、上條)

シチウタラノキ *Aralia ryukyuensis* (J. Wen) T. Yamaz. var. *inermis* (Yanagita) T. Yamaz. (セリ目 ウコギ科 タラノキ属) 伊豆諸島の一部

伐採などの攪乱を受けた場所に生育する落葉広葉樹。高さ 3~5m になる。葉は大きく、50~100cm。2~3 回羽状複葉。小葉は 5~10cm。裏面は白色。刺はなく、あっても少ない。花は小さく白色。果実は黒く熟す。伊豆諸島のタラノキ属は、本種とタラノキからなる。伊豆諸島のタラノキ属は、本種とシチウタラノキからなる。神津島以南がシチウタラノキとされるが、神津島より北にも、ウラジロタラノキの特徴を持つと思われる個体がある。



シチトウタラノキ(青ヶ島 2019 年 10 月、上條)



シチトウタラノキ。刺の全くない個体(三宅島 2019 年 9 月、上條)



シチトウタラノキ。刺が少しある個体(三宅島 2019 年 7 月、上條)

カクレミノ *Dendropanax trifidus* (Thunb.) Makino ex H. Hara (セリ目 ウコギ科 カクレミノ属) 伊豆諸島に広く分布

常緑広葉樹林の構成種の一つ。常緑小高木。高さ 5~7m。葉は長さ 5~10cm。葉は 3 裂するが、小型の葉は 3 裂しない。花弁は淡い黄緑色。果実は黒く熟す。本州から琉球に分布。

カクレミノ(三宅島 2007 年 3 月、上條)



アシタバ *Angelica keiskei* (Miq.) Koidz. (セリ目 セリ科 シシウド属) 伊豆諸島に広く分布

林縁、落葉広葉樹林の林床、路傍などに生育する多年草。高さ 50~120cm。それ以上になることもある。葉は 1~2 回 3 出複葉。茎や葉はちぎると黄色い液が出る。花は淡い黄色。若い葉や茎は食用となり、伊豆諸島では広く栽培もされている。



アシタバ(三宅島 2020 年 7 月、上條)



アシタバ(三宅島 2019 年 9 月、上條)



アシタバの新芽(利島 2015 年 4 月、上條)



アシタバ。茎から黄色い液が出る。(三宅島 2020 年 7 月、上條)

アシタバ畑。緑陰としてオオバヤシャブシが植栽されている(三宅島 2020 年 7 月、上條)



ボタンボウフウ *Peucedanum japonicum* Thunb. (セリ目 セリ科 ハクサンボウフウ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸に生育する多年草。高さ 60~100cm。葉は 3 出複葉か 1~2 回 3 出複葉。葉は厚く、青白い。食用となる。本州から琉球に分布。



ボタンボウフウ(三宅島 2019 年 6 月、上條)

オオカメノキ *Viburnum furcatum* Blume ex Maxim. (マツムシソウ目 ガマズミ科 ガマズミ属) 伊豆諸島の一部 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅰ類

高標高の雲霧林やササ草原に生育する落葉低木。葉は丸く対生する。花は白色。果実は赤く熟する。冷温帯から亜高山帯の樹種であり、温暖な伊豆諸島に生育していることは着目される。北海道から九州に分布。伊豆諸島では御蔵島にのみ分布。

オオカメノキ(御蔵島、星野)



ハクサンボク *Viburnum japonicum* (Thunb.) Spreng. var. *japonicum* (マツムシソウ目 ガマズミ科 ガマズミ属) 伊豆諸島に広く分布

常緑広葉樹林に生育する常緑低木。葉は対生する。花は白色。果実は赤く熟する。本州から琉球に分布。

ハクサンボクの花(三宅島 2016 年 3 月、穴原)



シマガマズミ *Viburnum brachyandrum* Nakai (マツムシソウ目 ガマズミ科 ガマズミ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島固有種 環境省 RDB:絶滅危惧Ⅱ類 東京都 RDB:絶滅危惧Ⅱ類

高標高の雲霧林に生育する落葉低木。葉は対生する。花は白色。果実は赤く熟する。伊豆諸島の固有種。

シマガマズミの花(神津島 2015 年 5 月、上條)



スイカズラ *Lonicera japonica* Thunb. var. *japonica* (マツムシソウ目 ガマズミ科 スイカズラ属) 伊豆諸島に広く分布

海岸、林縁、伐採などの攪乱跡地、落葉広葉樹林に生育するツル植物。葉は対生し、有毛。花は白色の後、淡い黄色となる。芳香がある。果実は黒く熟す。北海道から琉球に分布。



スイカズラ(三宅島 2020 年 5 月、上條)



スイカズラ(三宅島 2016 年 4 月、菊池)

オトコエシ *Patrinia villosa* (Thunb.) Juss. (マツムシソウ目 スイカズラ科 オミナエシ属) 伊豆諸島の一部

林縁、伐採などの攪乱跡地に生育する多年草。落葉性。高さ 50～80cm。花は白色。北海道から奄美に分布。伊豆諸島のものは、本州と比べ、高さに対して茎が太く、節間も短い。



オトコエシ(三宅島 2019 年 9 月、上條)



オトコエシの花(三宅島 2019 年 9 月、上條)

シマキンレイカ *Patrinia kozushimensis* Honda (Honda) (マツムシソウ目 スイカズラ科 オミナエシ属) 伊豆諸島の一部 伊豆諸島固有種
環境省 RDB:絶滅危惧 I A 類 東京都 RDB:絶滅危惧 I 類

神津島と御蔵島の高標高域の草原や岩場に生育する多年草。夏緑生。花は黄色。伊豆諸島固有種。



シマキンレイカ(御蔵島、星野)

ニオイウツギ *Weigela coraeensis* Thunb. var. *fragrans* (Ohwi) H. Hara (マツムシソウ目 スイカズラ科 タニウツギ属) 伊豆諸島固有変種

落葉広葉樹林や低木林に生育する落葉広葉樹低木。新しい火山噴火跡地や土砂崩れ跡地の先駆樹種。高標高地で多くなる傾向になる。葉は対生。花は白色、その後赤味を帯びる。芳香がある。ハコネウツギの変種。伊豆諸島の固有変種。



ニオイウツギ(三宅島 2018 年 5 月、上條)



ニオイウツギ(大島 2020 年 7 月、上條)

用語説明

亜種：分類における種の下の区分。

RDB：絶滅危惧種のリストのこと。

イチジク状花：クワ科イチジク属に特有の花のこと。

羽状複葉：鳥の羽毛のような分かれ方をする複葉のこと。

雲霧林：雲霧覆われることが多く、多湿環境の森林のこと。

塊茎：多年草の地下茎で、生育不適期に水と栄養素を蓄え、塊状になったもの。

花冠：花弁（花びら）の集まり。合着している場合もある。

がく（萼）：花冠の基部の葉にも類似した部位。

花序：茎を中心とした花の集合のこと。その付き方のこと。

花托：花が付く部分。

花弁：花びらのこと。

花被：花弁（花びら）とがくの区別が明瞭でない場合に用いる名称。

花被片：一つ一つの花被のこと。

花穂：花の集まりが穂（稲穂）のような形になるもの。

果穂：果実の集まりが穂（稲穂）のような形になるもの。

偽茎：地下から伸びた葉の葉鞘（通常は茎を覆う部分）が、地上で茎のように見えるもの。

極相林：植生遷移が進行して、これ以上変化しなくなった森林のこと。

鋸歯：葉の回りのギザギザのこと。

菌従属栄養植物：菌類から栄養を得て生活する植物。

互生：茎に対して葉が対になって出ること。

固有種：伊豆諸島の場合、元々、伊豆諸島のみに生育する種。

固有変種：伊豆諸島の場合、元々、伊豆諸島のみに生育する変種。

3回羽状複葉：羽状複葉が3回繰り返される複葉。

3回3出複葉：3出葉が3回繰り返される複葉。

三行脈：葉の主脈（中央の脈）の基部から、太めの脈が左右に出る様子を指す。

準固有種：伊豆諸島の場合、伊豆諸島に分布の中心がある一方で、本州の近隣などにも分布が確認される種のこと。

掌状複葉：てのひら状に小葉が分かれている複葉のこと。

小葉：複葉において、1枚の葉の中で分かれている一つ一つの葉のこと。

心形：葉の場合、葉の基部がハート型にへこむこと。

唇弁：ラン科の花の花被片の一つ。舌状に下に下がっている1枚。スミレ科の花にも用いられる。

深裂：葉の裂け方のこと。裂け目が深い場合に、深裂と呼ぶ。

節間：茎から葉が出ている場所同士の間のこと。

総状花序：下から上へ咲いてゆく花序のこと。

装飾花：ガクアジサイなどの花序において、花序の周辺をよく目立つ特徴的な花のこと。

側花弁：ラン科の花の花被片の一つ。左右上側の2枚を指す。

対生：茎に対して葉が互い違いに出ること。

多肉：葉に水分を多く含み、厚くなっている葉のこと。

窒素固定：空中窒素（窒素分子）を吸収すること。微生物と共生する一部の植物を除き、空中窒素（窒素分子）を植物は利用できない。

2回羽状複葉：羽状複葉が2回繰り返される複葉。

2回3出複葉：3出葉が2回繰り返される複葉。

二次林：人間活動による伐採、火入れ、耕作地の放棄の後に成立した森林。

芒（のぎ）：イネ科やカヤツリグサ科においては、鱗片の先にある棘状の突起のことを指す。

尾状花序：カバノキ科、ブナ科などの科でみられる花序。花が中央の茎の周りに密に付き、垂れ下がっていることが多い。

品種：分類における変種の下の区分

複葉：1枚の葉が複数の部位（小葉）に分かれている葉。

仏炎苞：サトイモ科の植物において、花序を覆う苞のこと。

変種：分類における亜種の下区分

萌芽：樹木の根元から、新たな枝（茎）が出ること。伐採された後に株から、新たな枝（茎）が出ること。

放線菌：微生物の一つ。オオバヤシヤブシの根粒において窒素固定を行うのは放線菌。

油点：ミカン科などの葉に見られる小さな油が溜まったもの。点状に見える。

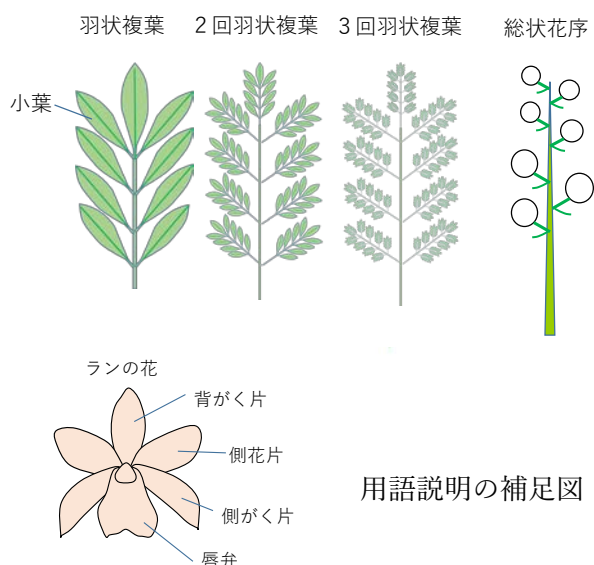
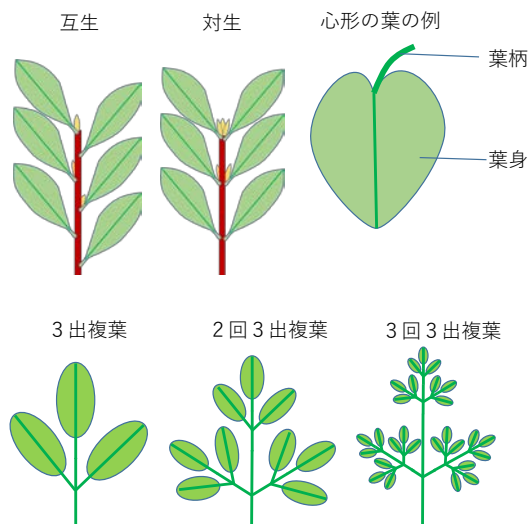
鱗茎：地下茎の一種。多肉になった鱗状の葉を重ねるようにつけているもの。

林床：森林内に生育する草本植物や低木のこと。

鱗片：イネ科やカヤツリグサ科においては、花の脇から花を覆うように出る部分のことを指す。

漏斗状：花冠の形が漏斗状のこと。

矮性低木：特に高さが低い低木林のこと。



用語説明の補足図

参考文献(*冊子中で引用した文献)

- 阿部晴恵・長谷川雅美 (2011) 植物の繁殖に関わる生物間相互作用: ヤブツバキとメジロが三宅島の森林生態系回復に果たす役割. 日本生態学会誌, 61(2), 185-195.
- Abe H, Hasegawa M (2008) Impact of volcanic activity on a plant-pollinator module in an island ecosystem: the example of the association of *Camellia japonica* and *Zosterops japonica*. Ecological research, 23(1), 141-150.
- Abe H, Matsuki R, Ueno S, Nashimoto M, Hasegawa M (2006) Dispersal of *Camellia japonica* seeds by *Apodemus speciosus* revealed by maternity analysis of plants and behavioral observation of animal vectors. Ecological Research, 21(5), 732.
- Abe H, Takahashi T, Hasegawa M (2014) Effects of volcanic disturbance on the reproductive success of *Eurya japonica* and its reproductive mutualisms. Plant ecology, 215(11), 1361-1372.
- Abe H, Ueno S, Tsumura Y, Hasegawa M (2011) Expanded home range of pollinator birds facilitates greater pollen flow of *Camellia japonica* in a forest heavily damaged by volcanic activity. In Single-pollen genotyping (pp. 47-62). Springer, Tokyo.
- 阿部和・小川泰浩・黒川潮・吉永秀一郎・岡本透・松山康治・趙炳薫 (2003) 三宅島火山降灰堆積地における緑化試験. 日本緑化工学会誌, 29(1), 208-211.
- 荒瀬輝夫・岡野哲郎・木村誇・井上晋 (2009) 御蔵島の台風崩壊地の植生回復における外来牧草播種の影響. 日本緑化工学会誌, 35(3), 448-461.
- BIRDER 編集部 (編) (2007) 「三宅島の自然ガイドーエコツーリズムで三宅島復興!」. 文一総合出版.
- Choi D, Toda H, Kim Y (2014) Effect of sulfur dioxide (SO₂) on growth and physiological activity in *Alnus sieboldiana* at Miyakejima Island in Japan. Ecological research, 29(1), 103-110.
- Cui J, Hirota M, Kamijo T, Yoshitake S, Kotoh K (2018) Soil net nitrogen mineralization at different ecosystem development stages after the year 2000 eruption on Miyakejima island. Journal of Ecosystem and Ecography, 8, 1-9.
- 八丈島インタープリテーション協会・植物ガイドブック作成部会 (2007) 「八丈島の植物ガイドブック」. 八丈島観光振興実行委員会, 八丈町.
- 八丈町 (2007) 八丈小島ノヤギ捕獲事業の経過. 八丈町.
- 長谷川雅美・阿部晴恵 (2006) 三宅島の噴火が島嶼(とうしょ)生態系に及ぼした影響と回復過程—生物間相互作用からみた三宅島の生態系の一側面—. 森林科学, 46, 24-27.
- 橋本啓史・上條隆志・樋口広芳 (2002) 伊豆諸島三宅島におけるヤマガラ *Parus varius* によるエゴノキ *Styrax japonica* の種子の利用と種子散布. 日本鳥学会誌, 51(2), 101-107.
- 服部保・南山典子・栃本大介・石田弘明・黒田有寿茂 (2012) 八丈島における照葉樹林の成立要因: 特に土地利用について. 植生学会誌, 29, 27-39.
- Higuchi H (1975). Comparative feeding ecology of two geographical forms of the varied tit, *Parus varius varius* in Southern Izu Peninsula and *P. v. owstoni* in Miyake I. of the Izu Is. Japanese Journal of Ornithology, 24(97-98), 15-28.
- Higuchi H (1977) Stored nuts *Castanopsis cuspidata* as a food resource of nestling varied tits *Parus varius*. Japanese Journal of Ornithology, 26(1), 9-12.
- Higuchi H (1976) Ecological significance of the larger body sizes in an island subspecies of the Varied Tit, *Parus varius*. In Proceedings of the Japanese Society of Systematic Zoology, 12, 78-86). The Japanese Society of Systematic Zoology.
- 樋口広芳 (2006) よみがえれ, 三宅島の自然!. 森林科学, 46, 4-6.
- 樋口広芳・長谷川雅美・上條隆志・岩崎由美・菊池健・森由香 (2019) 伊豆諸島八丈小島におけるノヤギ駆除後の島嶼生態系回復状況と復元に向けた基礎調査. 自然保護助成基金助成成果報告書, 28, 69-75.
- Hiraiwa M K, Ushimar A. (2017) Low functional diversity promotes niche changes in natural island pollinator communities. Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences, 284(1846), 20162218.
- Hiroki S, Ichino K (1993) Difference of invasion behavior between two climax species, *Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* and *Machilus thunbergii*, on lava flows on Miyakejima, Japan. Ecological Research, 8(2), 167-172.
- 本田正次・野津良知・鈴木 泰 (1958) 三宅島御蔵島植物調査報告. 「伊豆諸島文化財総合調査報告 第1分冊」(東京都教育委員会編). 東京都教育委員会, pp.11-37.
- 本田正次・鈴木泰・野津良知 (1959) II 植物 北伊豆諸島調査報告. 「伊豆諸島文化財総合調査報告 第2分冊」(東京都教育委員会編). 東京都教育委員会, pp.341-364.
- 本田正次・鈴木泰・野津良知・須原永助 (1959) II 植物 八丈島・青ヶ島植物調査報告, 「伊豆諸島文化財総合調査報告 第3分冊」(東京都教育委員会編). 東京都教育委員会, pp.875-896.
- 星野義延 (2004) 伊豆諸島の植生と三宅島. 植生情報, (8), 40-41.
- 星野義延・上條隆志・袴田伯領・奥富 清 (1994) III 植物 2. 植生, 「八丈島自然公園内環境基礎調査」(財団法人国立公園協会編). 財団法人国立公園協会, pp.123-170.
- 井上健 (1985). 八丈島におけるラン科ツレサギソウ属 2 種の繁殖生物学. 日本生態学会誌, 35(1), 77-83.
- Inoue K (1988) Pattern of breeding - system change in the Izu Islands in *Campanula punctata*: bumblebee - absence hypothesis. Plant Species Biology, 3(2), 125-128.
- 井上健 (1990). 伊豆諸島における訪花昆虫と植物. 日本の生物, 4(1), 26-33.
- Inoue K (1990a) Evolution of mating systems in island populations of *Campanula microdonta*: pollinator availability hypothesis. Plant Species Biology, 5(1), 57-64.
- Inoue K (1990b). Dichogamy, sex allocation, and mating system of *Campanula microdonta* and *C. punctata*. Plant Species Biology, 5(2), 197-203.
- *Inoue, K. (1993). Evolution of mutualism in plant-pollinator interactions on islands. Journal of Biosciences, 18(4), 525-536.
- 井上健. (1998). ヤクシマアカシュスラン, カゲロウラン八丈島に産す. 植物分類, 地理, 48(2), 205-206.
- Inoue K, Amano M (1986) Evolution of *Campanula punctata* Lam. in the Izu Islands: changes of pollinators and evolution of breeding systems. Plant Species Biology, 1(1), 89-97.
- 井上健・長谷川雅美・小林史郎 (1997) 伊豆諸島のクサギ属 (クマツヅラ科) の 1 新種. 植物研究雑誌, 72(2), 117-124.
- Inoue K, Kawahara T (1990). Allozyme differentiation and genetic structure in island and mainland Japanese populations of *Campanula punctata* (Campanulaceae). American Journal of Botany, 77(11), 1440-1448.
- Inoue K, Maki M, Masuda M (1996). Evolution of *Campanula* flowers in relation to insect pollinators on islands. In Floral biology (pp. 377-400). Springer, Boston, MA.
- Inoue K, Washitani I (1989) Geographical Variation in Thermal Germination Responses in *Campanula punctata* Lam. Plant species biology, 4(1), 69-74.
- 石原肇 (2006) 三宅島緑化ガイドラインの策定について. 植生情報, (10), 1-8.
- 磯部一洋 (1996) 第一節 地勢. 「新島村史 通史編」(新島村 編), 新島村, pp.1-40.
- 磯部一洋 (2006) 「新島村・伊豆諸島及び小笠原諸島の文献・雑録リスト」新島村博物館.
- 一色直也 (1959) 「5 万分の 1 地質図幅「八丈島」及び同説明書」. 地質調査所.
- 一色直記 (1987) 「新島地域の地質」地質調査所.
- Iwata H, Kamijo T, Tsumura Y (2005) Genetic structure of *Miscanthus sinensis* ssp. *condensatus* (Poaceae) on Miyake Island: implications for revegetation of volcanically devastated sites. Ecological Research, 20(2), 233-238.
- Iwata H, Kamijo T, Tsumura Y (2006) Assessment of genetic diversity of native species in Izu Islands for a discriminate choice of source populations: implications for revegetation of volcanically devastated sites. Conservation Genetics, 7(3), 399-413.
- 伊豆諸島植生研究グループ (2011a) 「御蔵島の植生」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- 伊豆諸島植生研究グループ (2011b) 「三宅島の植生」. 伊豆諸島植生研究グループ.

- 伊豆諸島植生研究グループ (2012a) 「神津島の植生」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- 伊豆諸島植生研究グループ (2012b) 「新島の植生」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- 伊豆諸島植生研究グループ (2013a) 「大島の植生」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- 伊豆諸島植生研究グループ (2013b) 「八丈島の植生」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- 伊豆諸島植生研究グループ (2015a) 「青ヶ島の植生」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- 伊豆諸島植生研究グループ (2015b) 「利島の植生」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- *伊豆諸島植生研究グループ (2016) 「伊豆諸島の森と草原」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- 伊豆諸島植生研究グループ (2018) 「伊豆諸島の植生－森林－」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- 伊豆諸島植生研究グループ (2019) 「伊豆諸島の植生－人里と草原－」. 伊豆諸島植生研究グループ.
- Kadota Y (2011) On the Entity of *Saussurea triptera* Maxim. var. *mikurashimensis* Ki-tam. (Asteraceae) from Mikurajima Island, Izu Islands, Japan (System-atic Studies of Asian Saussurea (Asteraceae) IV). *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, (47): 411-415.
- 亀谷行雄・戸田浩人・花岡功大・生原喜久雄 (2009) 三宅島 2000 年噴火後の森林植生の回復. 東京都農林総合研究センター研究報告, 4, 11-16.
- 上條隆志 (1996) 伊豆諸島八丈島と南九州の植生垂直分布の比較および八丈島の植生にみられる生態学的特質. 植生学会誌, 13, 59-72.
- 上條隆志. (1997). 伊豆諸島三宅島におけるスダジイ・タブノキ林の更新過程. 日本生態学会誌, 47(1), 1-10.
- 上條隆志. (2000). 伊豆諸島におけるスダジイの果実サイズの地理的変異. 筑波大学農林技術センター演習林報告, (16), 1-8.
- 上條隆志 (2005) 島嶼植生, 「図説日本の植生」(福島司・岩瀬徹(編)). 朝倉書店, pp.114-119.
- 上條隆志 (2007) 平成 18 年度八丈小島植生調査研究報告書. 八丈町.
- 上條隆志 (2017) 伊豆諸島の植物の固有性と保全. *Mikurensis* -みくらしまの科学-, 6, 40-46.
- 上條隆志 (2019) コラム 緑化植物 どこまできわめる オオシマザクラ (*Cerasus speciosa* (Koiz.) H. Ohba) 日本緑化工学会誌, 44(3), 550. http://jsrt.jp/pdf/dokomade/44-3_Oshimazakura.pdf
- Kamijo T, Hashiba K (2003) Island ecosystem and vegetation dynamics before and after the 2000-Year eruption on Miyake-jima island, Japan, with implications for conservation of the island's ecosystem. *Global Environmental Research*, 7(1), 69-78.
- 上條隆志・樋口広芳 (2011) 三宅島 2000 年噴火後の生態系の回復過程から学ぶ. 日本生態学会誌, 61(2), 219-226.
- 上條隆志・星野義延・袴田伯領 (2001) 伊豆諸島八丈島の形成年代の異なる 2 火山における常緑広葉樹林の種組成と分布. 植生学会誌, 18, 47-58.
- Kamijo T, Isogai T, Hoshino Y, Hakamada H. (2001) Altitudinal zonation and structure of warm-temperate forests on Mikura-jima Island, Izu Islands, Japan. *Vegetation Science*, 18, 13-22.
- Kamijo T, Kawagoe M, Kato T, Kiyohara Y, Matsuda M, Hashiba K, Shimada K (2008). Destruction and recovery of vegetation caused by the 2000-year eruption on Miyake-jima Island, Japan. *Journal of Disaster Research*, 3(3), 226-235.
- Kamijo T, Kitayama K, Sugawara A, Urushimichi, Sasai K. (2002) Primary succession of the warm-temperate broad-leaved forest on a volcanic Island, Miyake-jima, Japan. *Folia Geobotanica*, 37, 71-91.
- 上條隆志・清原諭高・松田深雪・加藤拓・星野義延・樋口広芳 (2005) 三宅島 2000 年噴火後のユノミネシダの分布拡大. 植物地理・分類研究, 58, 83-89.
- 上條隆志・永見直樹 (2000) 「八丈小島の植生－特に野生化ヤギの植生への影響－」. 東京都八丈支庁.
- 上條隆志・永見直樹 (2003) 「八丈小島の現存植生図と 1987 年から 2002 年の植生変化」. 東京都八丈支庁.
- 上條隆志・奥富清 (1993) 八丈島におけるスダジイ林とタブノキ林の分布とその成因. 日本生態学会誌, 43: 169-179.
- Kamijo T, Okutomi K (1995) Seedling establishment of *Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* and *Persea thunbergii* on lava and scoria of the 1962 eruption on Miyake-jima Island, the Izu Islands. *Ecological Research*, 10(3), 235-242.
- 上條隆志・島田和則・星野義延・遠藤徹 (2001) 伊豆諸島産と伊豆半島産のカラスザンショウ稚樹の形態比較. 筑波大学農林技術センター演習林報告, (17), 77-83.
- 環境省自然環境局 (2016) 「1/2.5 万現存植生図」. 環境省自然環境局生物多様性センター. http://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg_kiso.html
- *環境省自然環境局「環境省の巨樹・巨木林データベース」. 環境省自然環境局生物多様性センター. <https://kyoju.biodic.go.jp/> (2020 年 9 月参照)
- Kato S, Iwata H, Tsumura Y, Mukai Y (2011) Genetic structure of island populations of *Prunus lannesiana* var. *speciosa* revealed by chloroplast DNA, AFLP and nuclear SSR loci analyses. *Journal of plant research*, 124(1), 11-23.
- Kato T, Kamijo T, Hatta T, Tamura K, Higashi T (2005). Initial Soil Formation Processes of Volcanogenous Regosols (Scoriaceous) from Miyake-jima Island, Japan. *Soil Science & Plant Nutrition*, 51(2), 291-301.
- 川越みなみ・上條隆志・田村憲司 (2011) 三宅島の火山灰堆積地における発達程度の異なる植生が炭素蓄積量と土壌構造発達に与える影響. 日本生態学会誌, 61(2), 203-210.
- 風早康平・平林順一・森博一・尾台正信・中堀康弘・野上健治・中田節也・篠原宏志・宇都浩三 (2001) 三宅島火山 2000 年噴火における火山ガス・火山灰の付着ガス成分および SO₂ 放出量から推測される脱ガス環境一. 地学雑誌, 110, 271-279.
- 勝山輝男・支倉千賀子・小久保恭子 (2011) 伊豆諸島青ヶ島の維管束植物. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (40): 7-34.
- 菊地哲理・倉本宣 (2008) 伊豆大島における固有種サクユリの分布特性に関する研究. 日本緑化工学会誌, 34(1), 75-80.
- 菊池輝海・上條隆志・小川泰浩・岡部宏秋・石森良房 (2015) 火山性荒廃地における東京クレセントロール工法の治山緑化機能の評価. 日本緑化工学会誌, 41(1), 231-234.
- 小嶋紀行・藤原一繪 (2008) 伊豆諸島利島における森林植生の垂直分布とその成因. 植生学会誌, 25, 121-129.
- Kobayashi M (2000) Flower Morphology of *Sasa jotanii* (Poaceae: Bambusoideae). *The Journal of Japanese Botany*, 75, 241-247.
- 小林幹夫 (2017) 「日本のタケ亜科植物 原色植物分類図鑑」. 北隆館.
- Kobayashi S, Inoue K, Kato M (1999). Mechanism of selection favoring a wide tubular corolla in *Campanula punctata*. *Evolution*, 53(3), 752-757.
- Kunitake Y K, Hasegawa M, Miyashita T, Higuchi H (2004) Role of a seasonally specialist bird *Zosterops japonica* on pollen transfer and reproductive success of *Camellia japonica* in a temperate area. *Plant Species Biology*, 19(3), 197-201.
- 倉本宣 (1986) 伊豆大島におけるオオシマツツジの保全. 人間と環境, 12, 16-23.
- 楨原寛・星元規・大村和香子・岡部宏秋・鎌田淳史・安岡竜太 (2011) 三宅島 2000 年噴火後の甲虫相の変化. 日本生態学会誌, 61(2), 197-202.
- 御蔵島村教育委員会「フィールド図鑑御蔵島の植物・動物」制作部会(編) (2007) 「フィールド図鑑 御蔵島の植物・動物」. 東京都御蔵島村.
- 御蔵島自然研究グループ. 1995. 御蔵島原生自然域の植生学的研究. プロ・ナトゥーラ・ファンズ第 4 期助成成果報告書, 73-77. (財) 日本自然保護協会.
- 御蔵島自然研究グループ. 1996. 御蔵島原生自然域の生態学的研究. プロ・ナトゥーラ・ファンズ第 5 期助成成果報告書, 17-27. (財) 日本自然保護協会.
- 三宅島災害対策技術会議緑化関係調整部会 (2004) 「三宅島緑化ガイドライン」. 三宅島災害対策技術会議緑化関係調整部会.
- Miyake T, Aihara N, Yokoi H (2020) Relationship between interspecific pollen transfer and pistil length in sympatric congeners, *Clerodendrum trichotomum* and *C. izuinsulare*. *Plant Species Biology*.
- Miyake T, Inoue K (2003) Character displacement in style length between pollinator-sharing *Clerodendrum trichotomum* and *C.*

- izuinsulare* (Verbenaceae). Plant Systematics and Evolution, 243(1-2), 31-38.
- 水澤玲子 (2017) 伊豆諸島八丈島において人為的に移入したと思われる アマクサギ (シソ科) の生育を確認. 分類, 17(1), 75-81.
- Mizusawa L, Ishikawa N, Yano O, Fujii S, Isagi Y (2019). Geographic Distribution of Ploidy Levels and Chloroplast Haplotypes in Japanese *Clerodendrum trichotomum* s. lat. (Lamiaceae). Acta Phytotaxonomica et Geobotanica, 70(2), 87-102.
- Mizusawa L, Kaneko S, Hasegawa M, Isagi Y (2011) Development of Nuclear SSRs for the insular shrub *Clerodendrum izuinsulare* (Verbenaceae) and the widespread *C. trichotomum*. American journal of botany, 98(11), e333-e336.
- Mizusawa L, Takimoto G, Yamasaki M, Isagi Y, Hasegawa M (2014) Comparison of pollination characteristics between the insular shrub *Clerodendrum izuinsulare* and its widespread congener *C. trichotomum*. Plant Species Biology, 29(1), 73-84.
- 水島正美 (1955) 青ヶ島の高等植物. 資源科学研究所彙報, (38), 106-126.
- 森由香・岩崎由美・荒井智史・樋口広芳 (2019) 伊豆諸島の八丈小島および青ヶ島におけるクロアシアホウドリ *Phoebastria nigripes* の新繁殖地形成. Strix: journal of field ornithology: 野外鳥類学論文集, 35, 21-33.
- 仲山真希子・上條隆志・平田晶子 (2012) 伊豆諸島におけるスダジイ巨樹とその着生植物の保全. Mikurensis-みくらしまの科学-, 1, 7-23.
- 村上雄秀・西川博章・勝山輝男 (2015) 伊豆諸島神津島の植生-熱帯系シダ草原の群落体系-. 生態環境研究, 21, 22, 1-41.
- 中田節也・長井雅史・安田 敦・島野岳人・下司信夫・大野希一・秋政貴子・金子隆之・藤井敏嗣 (2001) 三宅島 2000 年噴火の経緯-山頂陥没口と噴出物の特徴-. 地学雑誌, 110, 168-180.
- Nakahama N, Ito, A, Kaneko S, Matsuki Y, Suyama Y, Hayano A, Murayama M, Isagi Y (2018). Development of microsatellite markers for the endangered orchid *Calanthe izu-insularis* (Orchidaceae). Genes & genetic systems, 17-00021.
- Nakahama N, Suetsugu K, Ito A, Hino M, Yukawa T, Isagi Y (2019). Natural hybridization patterns between widespread *Calanthe discolor* (Orchidaceae) and insular *Calanthe izu-insularis* on the oceanic Izu Islands. Botanical Journal of the Linnean Society, 190(4), 436-449.
- Nakajima R, Okamiya H, Shimokawa S, Yamamoto K, Kato H, Murakami N (2018) Comparison of floral traits and pollinator assemblages of insular and mainland varieties of *Lilium auratum*. Plant Species Biology, 33(4), 276-288.
- 高橋俊守・加藤和弘・上條隆志 (2011) 衛星リモートセンシングによる三宅島 2000 年噴火後の植生モニタリング. 日本生態学会誌, 61(2), 167-175.
- 新島自然愛好会 (編) (2004) 「新島・式根島の自然誌」. 新島自然愛好会, 新島, 320pp.
- 西田友香子 (2005) 八丈小島の固有陸産貝と野生化ヤギの影響. 立命館探検学, 2, 17-28.
- 野寄玲児・星野義延・磯谷達宏. (1996). 伊豆諸島御蔵島で発見された分布東限のイスノキ林. 植生学会誌, 13(1), 11-23.
- 小川泰浩・岡部宏秋・黒川潮 (2012) 三宅島雄山の火山ガス高濃度地域における山腹緑化試験. 日本緑化工学会誌, 38(1), 164-167.
- Ohba H, Akiyama S (2002) A synopsis of the endemic species and infraspecific taxa of vascular plants of the Izu islands. Memoirs of the National Science Museum (Tokyo), 38, 119-160.
- *大場達之 (1971) 御蔵島の植生. 神奈川県立博物館研究報告, 1(4), 25-53.
- *大場達之 (1975) ハチジョウイタドリ-シマタヌキラン群集-伊豆諸島のフロラの成立にふれて-. 神奈川県立中央博物館研究報告 (自然科学), (8), 91-106.
- *大場達之. (1990). 伊豆諸島のフロラと植生. 日本の生物, 4(1), 18-25.
- 大場達之 (1994) III 植物 1. 植物相, 「八丈島自然公園内環境基礎調査」(財団法人国立公園協会 編). 財団法人国立公園協会. pp.41-122.
- *大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編) (2015) 「改訂新版 日本の野生植物 1」. 平凡社.
- *大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (2016a) 「改訂新版 日本の野生植物 2」. 平凡社.
- *大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (2016b) 「改訂新版 日本の野生植物 3」. 平凡社.
- *大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (2017a) 「改訂新版 日本の野生植物 4」. 平凡社.
- *大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (2017b) 「改訂新版 日本の野生植物 5」. 平凡社.
- 大山晶子 (2001) 伊豆諸島新島・式根島・地内島におけるフロラ多様性と植物群落の多様性の研究. 平成 11 年度新島村博物館年報, 72-97.
- 大山晶子 (2002) 伊豆諸島新島・式根島・地内島におけるフロラ多様性と植物群落の多様性の研究. 平成 12 年度新島村博物館年報, 50-61.
- Oiki S, Kawahara T, Inoue K, Ohara M, Maki M (2001). Random amplified polymorphic DNA (RAPD) variation among populations of the insular endemic plant *Campanula microdonta* (Campanulaceae). Annals of Botany, 87(5), 661-667.
- 奥富清・梶原洋一 (1986) 伊豆諸島の植生特質, 「日本植生誌 7, 関東」(宮脇 昭(編)), 至文堂, pp.440-447.
- 奥富清・辻誠治・松下正俊 (1988) 「現存植生図, 大島・利島・新島」. 環境庁, 東京.
- 奥富清・星野義延・加藤一彦・松下正俊 (1988) 「現存植生図, 八丈島・八丈所属列島」. 環境庁, 東京.
- 奥富清・松下正俊・星野義延 (1988) 「現存植生図, 神津島・三宅島・御蔵島」. 環境庁.
- 大島自然愛好会 (編) (2000) 「伊豆大島の植物」. ぎょうせい.
- 里見信生・丸山尚敏 (1962) 御蔵島植物目録 (一). 羊歯植物. 北陸の植物, 11: 89-93.
- 里見信生・丸山尚敏 (1963) 御蔵島植物目録 (二). 金沢大学理学部付属能登臨海実験所年報, 3: 52-58.
- 里見信生・丸山尚敏 (1964) 御蔵島植物目録 (三). 金沢大学理学部付属能登臨海実験所年報, 4: 79-82.
- 西條好迪 (1971) フォッサマグナ地域における植生の研究 (1) 神津島のスダジイ林について. 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), 18, 69-90.
- 社団法人日本植物学会 (編) (可知直毅・村上哲明 責任編集) (2011) 「東京都の島の植物と 生物多様性-伊豆諸島から小笠原まで一」. 社団法人日本植物学会.
- 嶋根豪全 (1980) 青ヶ島の植物, 「青ヶ島の生活と文化」(青ヶ島村教育委員会 編). 青ヶ島村役場, pp.190-237.
- 七島花の会 (2011) 「神津島花図鑑」日本出版ネットワーク, 東京.
- Shuri K, Saika K, Junko K, Michiharu K, Nagamitsu T, Iwata H, Tsumura Y, Mukai Y (2012) Impact of negative frequency-dependent selection on mating pattern and genetic structure: a comparative analysis of the S-locus and nuclear SSR loci in *Prunus lannesiana* var. *speciosa*. Heredity, 109(3), 188-198.
- 末次健司・石田賢也 (2011) タヌキノショクダイの新産地と菌根形態について. 植物地理・分類研究, 59(1), 43-45.
- Suetsugu K, Nakahama N, Ito A, Hino M, Isagi Y (2016) The sweat bee *Lasiglossus occidentis* is a potential pollinator of *Calanthe aristulifera* in the oceanic Izu Islands. Entomological News, 125(5), 368-373.
- Suetsugu K, Nakahama N, Ito A, Isagi Y (2017) Time-lapse photography reveals the occurrence of unexpected bee-pollination in *Calanthe izuinsularis*, an endangered orchid endemic to the Izu archipelago. Journal of Natural History, 51(13-14), 783-792.
- Suetsugu K, Shitara T, Nakato N, Ishida K, Hayakawa H (2019) First record of *Goodyera* × *maximo-velutina* (Orchidaceae) from Kozu Island, Japan. Taiwania, 64(4), 347-352.
- 菅香世子・遠藤邦彦・杉原重夫 (2000) 6-2 伊豆諸島の諸火山, 「日本の地形 4 関東・伊豆小笠原」(貝塚宏平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦 編). 東京大学出版会, 東京, pp.271-286.
- 杉山武久 (編著) (1983) 「伊豆諸島の植物誌」. 関東電通印刷, 東京.
- *鈴木泰 (1956) 伊豆諸島の植物分布について. 植物学雑誌, 69(822), 598-601.
- *高橋秀男 (1971) フォッサマグナ要素の植物. 神奈川県博物館調査研究報告 自然科学, (2), 1-59, plate.
- 高橋秀男・勝山輝男 (1992) ハコネコメツツジとオオシマツツジの自然雑種について. 神奈川県立博物館報告, (21), 59-71.
- 田中徳久 (1999) 神津島天上山の植物群落. Actinia, 12, 147-158.

- 戸田浩人・花岡功大・江原三恵・佐々木龍一・生原喜久雄・亀谷行雄・崔東寿 (2008) 三宅島 2000 年噴火後の森林土壌の理化学性と植生回復. 日本緑化工学会誌, 34(1), 21-26.
- 戸田浩人・花岡功大・岸本和也・生原喜久雄・亀谷行雄 (2007) 三宅島における火山灰の表層土壌に対する酸緩衝力の発現機構と地図化. 日本緑化工学会誌, 33(1), 21-26.
- 徳田誠 (2014) 伊豆諸島の虫い形成タマバエ相 (特集 伊豆諸島の昆虫). 昆虫と自然, 49(3), 26-29.
- Tokuda M, Matsuo K, Kiritani K, Yukawa J (2013) Insect galls found on Ohshima, Kozushima and Nijima Islands, the Izu Islands, Tokyo, Japan. Makunagi, Acta Dipterologica, 25, 1-16.
- 利島村 (編) (1996) 「利島村史」. 利島村.
- 東京都 (2007) 「三宅島噴火災害誌」. 東京都.
- 東京都八丈支庁 (2010) 「平成 22 年度版事業概要」. 東京都八丈支庁.
- 東京都八丈支庁 (2013) 「事業概要 平成 26 年版」. 東京都八丈支庁.
- 東京都八丈島八丈町教育委員会 (1972) 八丈島誌. 東京都八丈島八丈町役場.
- 東京都環境局自然環境部計画課・アジア航測株式会社 (2013) 「平成 24 年度東京都 (伊豆諸島) 現存植生調査委託報告書 (別冊) 平成 24 年度伊豆諸島植生図」. 東京都環境局自然環境部計画課・アジア航測株式会社, 東京.
- 東京都大島支庁 (2013) 「平成 24 年度版管内概要」. 東京都大島支庁総務課, 大島町.
- 東京都利島村役場 (2008) 「伊豆諸島, 利島の島, 利島の植物」. 東京都利島村役場.
- Yamada T, Kashiwagi T, Sawamura M, Maki M (2010). Floral differentiation among insular and mainland populations of *Weigela coraeensis* (Caprifoliaceae). Plant systematics and evolution, 288(1-2), 113-125.
- Yamada T, Kodama K, Maki M (2014) Floral morphology and pollinator fauna characteristics of island and mainland populations of *Ligustrum ovalifolium* (Oleaceae). Botanical Journal of the Linnean Society, 174(3), 489-501.
- Yamada T, Maki M (2008) Isolation and characterization of microsatellite loci from *Weigela coraeensis* (Caprifoliaceae). Molecular ecology resources, 8(1), 155-157.
- Yamada T, Maki M (2012) Impact of geographical isolation on genetic differentiation in insular and mainland populations of *Weigela coraeensis* (Caprifoliaceae) on Honshu and the Izu Islands. Journal of Biogeography, 39(5), 901-917.
- Yamada T, Maki M (2014) Relationships between floral morphology and pollinator fauna in insular and main island populations of *Hosta longipes* (Liliaceae). Plant Species Biology, 29(2), 117-128.
- Yamamoto K, Murakami N, Ebihara A (2010) The distribution of *Dryopteris caudipinna* (Dryopteridaceae), a sexually reproducing counterpart of the apogamous *D. erythrosora*, in Japan. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica, 61(2), 109-114.
- Yamamoto S, Kikuchi T, Yamagiwa Y, Handa T (2017) Genetic diversity of *Lilium auratum* var. *platyphyllum* endemic to the Izu archipelago and its relationship to a nearby population of *L. auratum* var. *auratum* by morphological and SSR analysis. The Horticulture Journal, doi: 10.2503/hortj.OKD-006.
- 山本和夫 (1996) 第四節 陸上の植物. 「新島村史 通史編」. 新島村, pp.71-102.
- 山本和夫 (1996) 新島・式根島 植物目録. 「新島村史 資料編 I 別冊」. 新島村, pp.25-54.
- 山西亜希・上條隆志・恒川篤志・樋口広芳 (2003) 衛星リモートセンシングによる伊豆諸島三宅島 2000 年噴火の植生被害の把握. ランドスケープ研究, 66, 473-476.
- Yonekura K (2005) Taxonomic notes on vascular plants in Japan and its adjacent regions (I). New combinations and new names of Japanese plants. Journal of Japanese Botany, 80(6), 323-333.
- Yonekura K (2011) Taxonomic notes on vascular plants in Japan and its adjacent regions II. Journal of Japanese Botany, 86(4), 230-241.
- *米倉浩司・梶田忠 (2003) 「BG Plants 和名-学名インデックス (YList)」. <http://ylist.info> (2020 年 9 月参照).
- Zhang X, Li H, Hu X, Zheng P, Hirota M, Kamijo T (2020). Photosynthetic properties of *Miscanthus condensatus* at volcanically devastated sites on Miyake-jima Island. Plants, 9(9), 1212.
- *常谷幸雄 (1931a) 伊豆大島植物目録 第一報. 科学の農業, 12(2), 1-17.
- 常谷幸雄 (1931b) 伊豆大島植物目録 第二報. 科学の農業, 12(12), 19-26.
- 常谷幸雄 (1932) 伊豆大島植物目録 第三報. 科学の農業, 14(1), 15-28.
- 常谷幸雄 (1932) 三宅島産植物知見 第一報[豆南諸島植物調査予報 VII]. 科学の農業, 14(3), 9-20.
- 常谷幸雄 (1933) 神津島の植物第一報. 科学の農業, 14, 76-89.
- 常谷幸雄 (1935) 八丈島産植物ニ就テ (補遺 I). 科学の農業, 15(1-2), 22-25.
- 常谷幸雄 (1935) 伊豆大島植物目録 第四報. 科学の農業, 15(2,3), 96-98.
- 常谷幸雄 (1935) 御蔵島の植物に就いて. 科学の農業, 16, 35-49.
- 常谷幸雄 (1935) 三宅島植物知見第二報[豆南諸島植物調査予報 XII]. 科学の農業, 16(2), 80-87.
- 常谷幸雄 (1935) 新島ノ植物ニ就テ 第一報. 科学の農業, 16(3,4), 113-127.
- 常谷幸雄 (1936) 三宅島植物知見第三報[豆南諸島植物調査予報 XVI]. 科学の農業, 17(2), 72-74.
- 常谷幸雄 (1936) 式根島ノ植物ニ就テ 第一報. 科学の農業, 17(1), 18-26.
- 常谷幸雄 (1936) 地内島ノ植物ニ就テ 第一報. 科学の農業, 17(1), 27-29.
- 常谷幸雄 (1937) 神津島の植物第二報. 科学の農業, 17, 113-116.
- 常谷幸雄・馬場篤 (1932a) 八丈島産植物ニ就テ. 科学の農業, 13(2), 1-9.
- 常谷幸雄・馬場篤 (1932b) 八丈島産植物ニ就テ (続). 科学の農業, 13(5), 15-25.
- *常谷幸雄・大場秀章 (1968) 伊豆諸島植物誌 1 シダ 植物. 横須賀市博物館研究報告 (自然科学). (14), 42-61

伊豆諸島に分布する植物名索引
(植物図鑑の部分のみ)

アオキ	42	サルトリイバラ	15	ハチジョウキブシ	36
アオノクマタケラン	22	シキミ	11	ハチジョウギボウシ	22
アカメガシワ	35	シチトウエビヅル	28	ハチジョウグワ	29
アケボノシュスラン	19	シチトウスミレ	35	ハチジョウコゴメグサ	45
アンタバ	49	シチトウタラノキ	48	ハチジョウシュスラン	19
アツバスミレ	35	シマウチワドコロ	14	ハチジョウシヨウマ	27
アマクサギ	44	シマガマズミ	50	ハチジョウススキ	25
アリドオシ	42	シマキンレイカ	51	ハチジョウスズタケ	24
イズイワギボウシ	22	シマクサギ	44	ハチジョウチドリ	21
イズノシマウメバチソウ	34	シマササバラ	20	ハチジョウツレサギ	21
イズノシマダイモンジソウ	27	シマタヌキラン	23	ハドノキ	30
イズノシマホシクサ	23	シマテンナンショウ	13	ハマオモト	22
イソギク	48	シマナガバヤブマオ	30	ハマカンゾウ	21
イソマツ	37	シマノガリヤス	24	ハマゴウ	44
イソヤマテンツキ	24	シマホタルブクロ	46	ハマコンギク	47
イヌツゲ	45	シマヤマブキシヨウマ	31	ハマサオトメカズラ	42
イヌビワ	29	シャシャンボ	41	ハマシャジン	45
イヌマキ	10	シャリンバイ	32	ハマナタマメ	28
ウエマツソウ	14	シュスラン	20	ハマナデシコ	37
ウツギ	38	ショウジョウバカマ	15	ハマヒルガオ	43
ウラシマソウ	12	シロシャクジョウ	13	ハマボッス	39
エゴノキ	40	シロダモ	12	ヒゲスゲ	23
エノシマススキ	25	シロバナハマナデシコ	37	ヒサカキ	39
エビネ	17	スイカズラ	50	ヒナノシャクジョウ	13
オオカメノキ	50	スカシユリ	15	ヒメトケンラン	21
オオキリシマエビネ	17	ススキ	25	ヒメユズリハ	27
オオシマカンスゲ	23	スダジイ	32	フウトウカズラ	11
オオシマザクラ	31	セッコク	18	ヘクソカズラ	42
オオシマシュスラン	19	センニンソウ	26	ペンテンツゲ	26
オオシマツツジ	41	センブリ	42	ホウチャクソウ	15
オオシマハイネズ	10	ソナレセンブリ	42	ホザキノフサモ	28
オオツルコウジ	39	タイトゴメ	28	ボタンボウフウ	49
オオバイヌツゲ	45	タヌキノショクダイ	13	ホルトノキ	34
オオバエゴノキ	40	タブノキ	11	ホンゴウソウ	14
オオバヤシャブシ	33	タメトモユリ	16	マイヅルソウ	22
オオムラサキシキブ	43	タラノキ	48	マメヅタラン	16
オオモミジ	36	ツゲ	26	マルバアキグミ	29
オキナワハイネズ	10	ツチアケビ	18	マルバシャリンバイ	32
オサラン	19	ツリガネニンジン	45	ミクラザサ	24
オトコエシ	50	ツルオオバマサキ	34	ミクラシマトウヒレン	47
オニドコロ	14	ツルコウジ	39	ミヤマシキミ	36
カキラン	18	ツワブキ	47	ムギラン	17
ガクアジサイ	38	ティカカズラ	42	ムベ	25
カクレミノ	49	テリハノイバラ	30	メダケ	24
カゴメラン	19	テリハノブドウ	28	モウセンゴケ	37
カジイチゴ	31	トゲナシカラスザンショウ	36	モミジガサ	47
カラスザンショウ	36	トゲナシサルトリイバラ	15	ヤクシマアカシュスラン	20
キキョウ	46	トコロ	14	ヤナギイチゴ	30
キブシ	36	トベラ	48	ヤブコウジ	39
キボウシノ	24	ナギラン	18	ヤブツバキ	40
キリシマノガリヤス	24	ナツエビネ	17	ヤブニッケイ	11
キンラン	17	ナンバンギセル	45	ヤマグルマ	26
クサギ	44	ニイジマスミレ	35	ヤマノイモ	13
クロマツ	10	ニオイウツギ	51	ヤマモモ	33
コウツエビネ	17	ニオイエビネ	17	ユウコクラン	20
コウツシマヤマツツジ	41	ハクサンボク	50	ユウシュンラン	18
コクラン	20	ハコネコメツツジ	40	ユズリハ	27
サクノキ	26	ハチジョウアキノキリンソウ	47	ヨウラクラン	21
サクユリ	16	ハチジョウアザミ	46	ラセイタソウ	29
サネカズラ	11	ハチジョウイタドリ	37	ラセイタタマアジサイ	38
		ハチジョウイチゴ	31	リュウノヒゲモ	13
		ハチジョウイヌツゲ	45	リュウブ	40
		ハチジョウイボタ	43	ワダン	47
		ハチジョウオトギリ	35		

写真撮影者

荒井智史 穴原美奈 石田賢也 市川沙央里
上條隆志 菊地ひとみ 島崎広光 津村一
仲山真希子 西谷香奈 野田博之 平田晶子
星野義延 前田海人 牧口陽介 八木正徳
守容平

表紙写真の植物

オオシマトツジ	ハチジョウススキ	シマタヌキラン	ハチジョウウコメグサ	ハチジョウオトギリ	マイヅルソウ
オオバヤシャブシ	ニオイウツギ	オオシマトツジ	オオバイヌツゲ		
カジイチゴ	サクユリ	サクユリ	イヌビワ		
オオシマザクラ			ヨウラクラン		
ガクアジサイ	タブノキ	スダジイ	ヤブツバキ		
シマホタルブクロ	アノクマタケラン		スダジイ		
オオムラサキシキブ			ヒメトケンラン		
イズノシマダイモンジソウ	ハマカンゾウ	スカシユリ	ホンゴウソウ	ニオイエビネ	
			イソギク		
アシタバ	シチトウスミレ	シチトウスミレ	シチトウスミレ	ニイジマスミレ	ハマナデシコ
				ハマナデシコ	リュウノヒゲモ

伊豆諸島の種子植物とその生態

ー伊豆諸島の植物ガイド種子植物編ー

2020 年 11 月 30 日発行

著者・発行：伊豆諸島植生研究グループ

上條隆志（代表）、星野義延、八木正徳、石橋正行、
川越みなみ、長谷川雅美、加藤英寿 他

印刷：前田印刷株式会社

問い合わせ先：

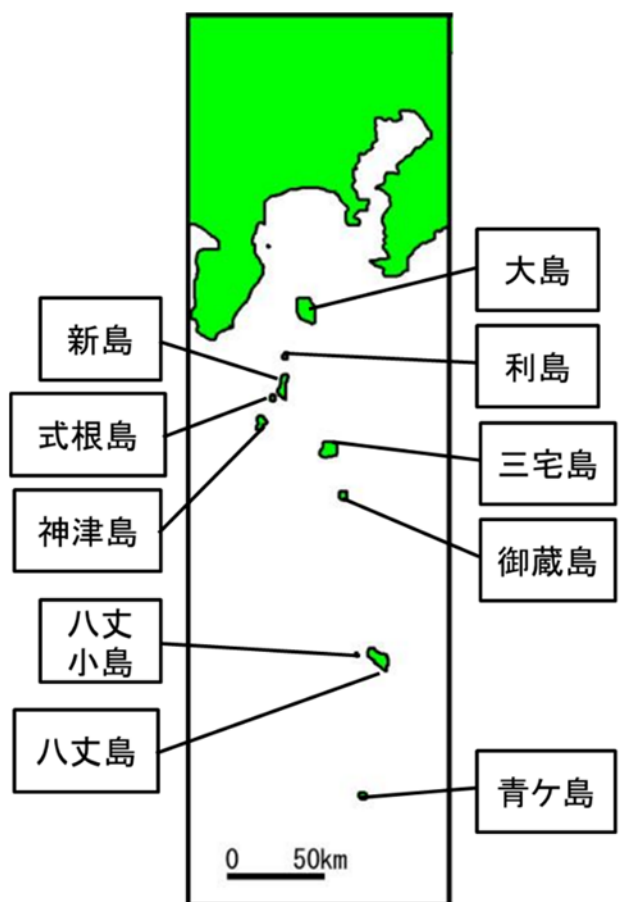
伊豆諸島植生研究グループ事務局

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学生命環境系 上條隆志

kamijo.takashi.fw@u.tsukuba.ac.jp

この植生ガイドは 2019 年度の PRO NATURA FUND（自然保護助成基金）による助成金によって作成されました。本冊子の無断転載についてはお断りします。



伊豆諸島の種子植物とその生態
ー伊豆諸島の植物ガイド種子植物編ー
発行：伊豆諸島植生研究グループ
印刷：前田印刷株式会社